

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

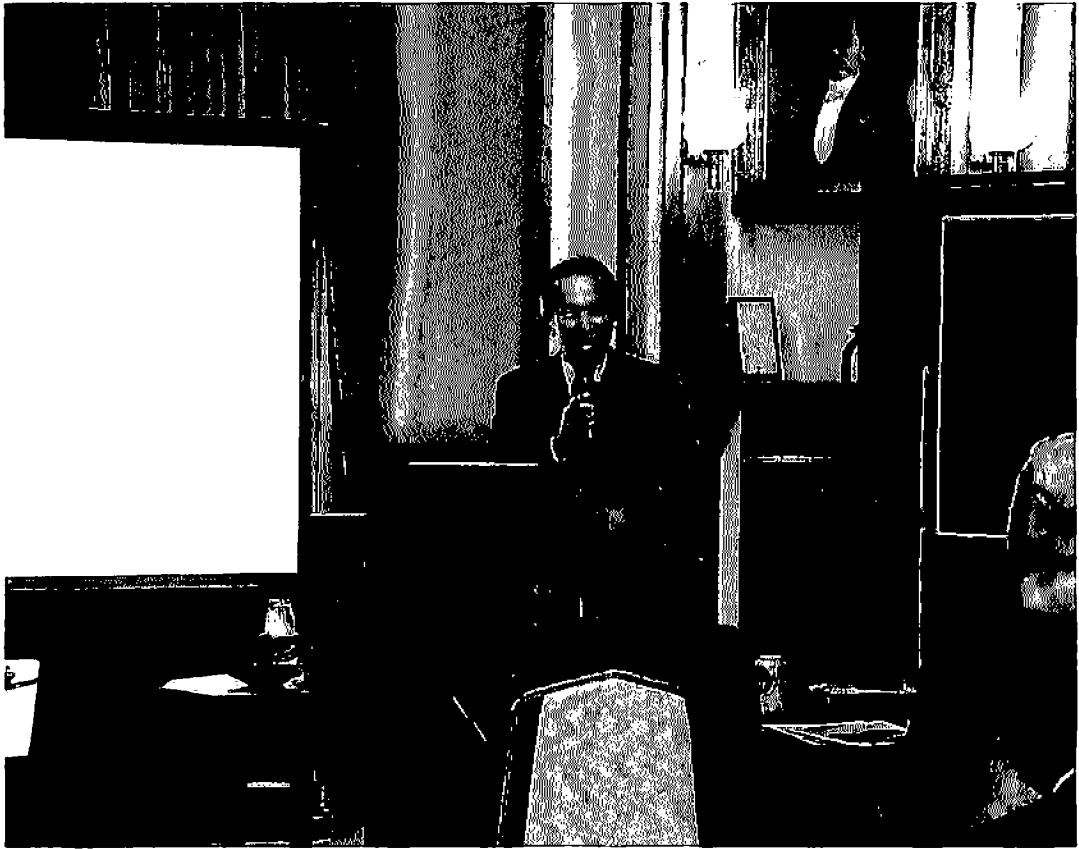


力作ぞろいの文化祭 写真、絵画、俳句を展観

桐生倶楽部恒例の文化祭が5月9日から11日の3日間、開催された。会場となった会館2階大広間に、社員は日ごろ取り組んでいる趣味の写真や絵画、俳句などを出品し、展覧しつつ、和気あいあいと、互いに感想などを述べあっていた。

また春季囲碁大会が4月26日に、麻雀大会が4月25日にそれぞれ開催された。囲碁大会は岸田信克さんが優勝、倉林俊雄さんが2位、福永儀一さんが3位。麻雀大会は優勝が養田隆さん、2位が松枝幹さん、3位が船山克人さんだった。

楽しい低炭素社会の構築



宝田恭之^{群馬大学 理工学府}教授が講演 月次会報告 (4月)

去る、平成26年4月17日、桐生倶楽部2階大広間において4月月次会が開催されました。今回の月次会は、群馬大学理工学府教授の宝田恭之工学博士をお迎えして、『これからのエネルギーと温暖化～楽しい低炭素社会の構築～』という演題による、講演会がおこなわれました。

東日本大震災以後、エネルギー問題が大きな話題となっている時期だけに、面白い演題であると考えていました。また、これからの日本のエネルギー問題を考える上においても、興味のあるお話が聞けることとの期待が高まりました。

講演会の前半では、グラフや図を使った数値的なもの、実際に計測されたデータを使ったエネ

ルギーの説明があり、かなり理数系の話のように思われました。しかし、後半は地元の桐生川を使ったエネルギーを全く使わない、猛暑の夏の過ごし方や、小さな省エネも数がまると、大きな省エネとなる、等の大変興味深いお話をしていただきました。

宝田先生の研究が研究室内部だけのものでなく、研究室を飛び出し、直接我々の生活に密着した、非常に身近な研究をなされていることにビックリしました。また、これからもこのような月次会を企画したいと思っております。多くの社員の方々の参加をお待ちしています。(2階大広間、参加者32人) (酒井 記)



群馬百名山の大峰山、吾妻耶山に登る

歩く会4月例会

桐生倶楽部歩く会4月例会は、大峰山、吾妻耶山の縦走です。参加者8名、定刻6時に集まり出発。北関東道から関越道と高速道乗り継いで、予定より少し早く登山口に到着。歩き出して間もなく登山道は、真っ白な雪道に変わり果てしなく続いていた。

一面の雪に覆われた登山道はルートファインディングが難しく、何度かルートを探してさまよった。

そんな折、吉田(光)さんが持参したGPSに大いに助けられた。GPSとは、人工衛星が発する電波によって受信者の現在地を特定する機器で、山においては現在地と登山ルートとの位置・方向

・距離等を示す。スキー場の大雪原を縦断し登りつめた吾妻耶山山頂は、眼前に谷川連峰、右に尾瀬の至仏山、上州武尊山、左に上越国境の山並が快晴の青空の下、神々しく白く輝き、それまでの疲れを一気に癒してくれた。最高の条件で見た谷川岳の光景は、終生忘れられない宝物になるでしょう。

続いて電波塔で有名な大峰山に登り、下山した。帰途、近くの日帰り温泉・真沢の森で汗を流し、4時過ぎの帰宅となった。参加者全員満足のいく山行であったが、今後の桐生倶楽部歩く会を考える時、GPSの導入を前向きに検討させるきっかけを与えてくれた忘れられない例会になった。

(岸田 記)

5月は石尊山、深高山

週間予報では雨が心配されていましたが、予報も好転し晴れ模様のもと、参加者10名(女性1名)が7時30分に桐生倶楽部を乗用車三台に分乗し出発。小俣に入ると前方の山には山火事の跡が黒くなって見える、風向き次第では石尊山も被害にあったかもしれません。

登山口に到着後石尊山神社に参拝し(お賽銭もあげて)記念写真を撮り登山開始。途中右側の山の中に大きな採石場が現れる、痛々しい姿が目に入る。しばらくすると登山道脇につつじが咲いていた。やや盛りを過ぎた感じであったが、登るにつれて花もきれいになってきた。元気がでる!

岩のごつごつした急坂を登り石尊山山頂にほぼ予定通りに到着。再び記念写真を撮り、深高山に

向けて尾根道を歩く、途中つつじの花が出迎えてくれる。ときどき写真を撮る。予定通りに深高山山頂に到着し、ちょっと早いかな?(10時ごろ)ここで昼食タイムとする。これで夕方のガーデンパーティーまでお腹が持つか一寸心配、内緒で帰宅後2回目の昼食をとる人がいるかも?

下山は一直線において予定より少し早く石尊山登山口に到着し、車分乗で桐生倶楽部へ12時前に到着し解散。ガーデンパーティーでは打ち上げ会を兼ねて乾杯!!

(吉田 記)



五月晴れに恵まれて ガーデンパーティー

五月晴れの11日、平成26年度の桐生倶楽部ガーデンパーティーが催され、緑滴る中庭に89人の社員とその家族が参加し、用意されたご馳走や飲みものを味わいながら、軽音楽、そして談笑と、ひとときを心ゆくまで楽しんだ。

この日あいさつに立った阿部高久理事長は、中庭の雨どいなどを新調する計画を説明し、文化財としての会館を維持管理していく役割を果たしていくために、今後もいっそうの協力をお願いしたいと、社員に呼びかけていた。



ゴルフコンペは 竹内さん2連覇

文化祭協賛、春のゴルフコンペは4月26日、快晴に恵まれ、桐生カントリークラブにおいて、4組13名の参加をいただき楽しくプレーしてきました。

優勝は竹内博博さんで見事2連覇です。準優勝は野沢八千万さん、3位は朝倉富美夫さん、ベストは朝倉富美夫さんでした。

秋のコンペも予定しています。皆さん奮って参加して下さい。



故里の土筆を摘みし幼き日	路の暮春そのものを見つれたり	数多き亡き友偲ぶ彼岸かな	たくましく水面走りて鳥帰る	孫の絵に土筆大きく描いてあり
久保田広人	有阪 昌治	塚越 平人	遠藤 勝久	川村 隆

通り抜け人とさくらのお出ひかな	蝌蚪生れ浅き水辺により添ひぬ	ふる里の花見は一番桜山	花満ちて奈良の仏の笑み光る	蝶二つからまり合ひて空に消ゆ
久保田広人	塚越 平人	有阪 昌治	川村 隆	遠藤 勝久

桐生倶楽部はぐるま句会

三月

四月

＝ 倶楽部だより ＝

- [4月]**
 - ・文化活動委員会 (2日)
 - ・理事会 (7日)
 - ・歩く会例会「吾妻耶山」 (13日)
 - ・写真部会 (14日)
 - ・歩く会世話人会 (16日)
 - ・月次会「これからのエネルギーと脱温暖化」 (17日)
 - ・営繕委員会 (17日)
 - ・社員増強委員会 (24日)
 - ・麻雀大会 (25日)
 - ・美術部会 (25日)
 - ・春のゴルフコンペ (26日)
 - ・春季囲碁大会 (26日)
 - ・重要文化財特別委員会 (28日)
 - ・はぐるま句会 (30日)
- [5月]**
 - ・文化祭 (9～11日)
 - ・ガーデンパーティー (11日)
 - ・歩く会 足利「足利・石尊山～深高山」 (11日)
 - ・理事会 (12日)
 - ・歩く会世話人会 (15日)
 - ・はぐるま句会 (28日)

【退社社員】 平田 澄子 藤生 泰則
篠田 久

一般社団法人 桐生倶楽部 第201号
 2014年(平成26年) 6月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



「市財政は健全です」

亀山桐生市長が講演

一月次会報告(6月)一

6月の月次会は16日、亀山豊文桐生市長を講師に招き、「桐生市予算の変遷」について話を聞いた。市長は就任後の行政改革にふれながら、「桐生市は財政的に健全になってきた。今後いろいろな事業ができると思う」と、こう語った。

講演の中で市長は2007年からの市の歳入歳出予算や市債残高、財政調整基金の推移などについて解説し、歳出では職員数削減により人件費を8年間で24億円以上減らしたことを説明。借金がある市債の残高も「07年の通常債が308億円だったが、今年度予算では204億円まで大き

く減らすことができた」と述べた。

また貯金である財政調整基金も「一時は10億円を割る心配もあったが、13年度には55億8000万円までになった。これだけあると、少し余裕が出てきた」とも話した。

このほか、今年度事業にも触れ、市の最重要課題になっている人口減少対策については「桐生市に若い世代が住み、結婚して、子どもを育てるための環境づくりをすすめる。実施できることはどんどん行いながら、人口減少に歯止めをかけたい」とした。(2階大広間、参加者43人)

ワインの夕べに
今年もようこそ
専門家招く



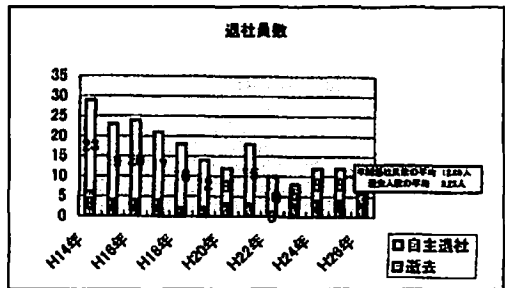
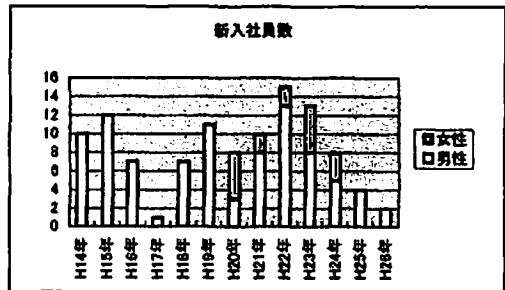
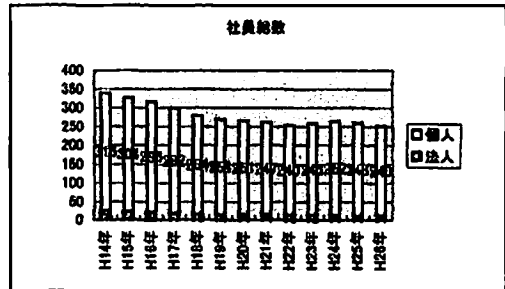
7月の月次会

7月の月次会は昨年大変好評だった『ワインの夕べ』を開催。あと4年で100周年を迎える桐生倶楽部の大広間には前回は10人上回る59人の方が参加、ワイン専門家金井強さんの興味深いお話に熱心に耳を傾け、ワインの知識を深めていた。専門家に直接質問する機会にも恵まれた。

この日は、まず、3種類のワインの飲み比べ。良質なワインを作るには痩せた土壌が必要であるなどフランスのワインと日本のワインの育ち方の違いを学び、プロヴァンス地方のシャトー・パのワインとブルゴーニュ地方のピノ・ノアールのワインを堪能して、食事を楽しんだ。

赤、白、ロゼと味わうにつれ、参加者の会話は弾みを増し、社員間の交流を深めることができた。

(村田勝俊 記)



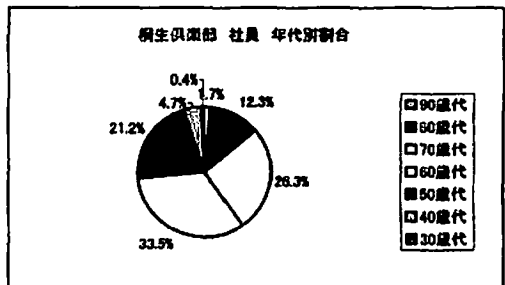
社員増強委員会より

4月24日に第一回、6月30日に第二回社員増強委員会を開催しました。またその間の6月25日には役員特別懇談会に於きましても、社員増強をテーマとして協議していただきました。

今回役員特別懇談会において、前原勝良理事に整えていただきました現在の桐生倶楽部社員の推移を掲載いたします。

如何に社員増強が急務であるかが如実に表れた資料となっています。

平均年齢		
全社員	女性	理事
67.2	64.2	70



霧降高原から「赤薙山」へハイキング 6月の歩く会



曇一つない晴天に心を躍らせて5時50分に倶楽部に集合、参加者は9名（うち女性2名）である。予定どおり6時に車3台で出発した。がら空きの122号を柔らかな新緑に目を洗われる思いで会話が弾み、日足トンネルを抜けて、7時45分に霧降高原レストハウス（標高1340m）に到着した。日光市内に入ると男体山（2486m）、女峰山（2464m）、赤薙山（2010m）の三峰が背空を背景にくっきりと浮き上がっているのが望まれた。目指す赤薙山には茶色のガレ場が筋を引いて緑の裾野の森に流れている。

眼前に一直線をなして伸び上がる階段「天空回廊」を8時に踏み出す。左手に旧スキー場（2003年に廃止）の草地のスロープ、背後には高原山と真っ青な栗山ダムを中心とする山並が広がる。1445段の階段を過ぎて鏡り上がっていく稜線の先の頂上を振り仰ぎながら、熊笹に覆われた緩斜面をゆっくりと登っていく。鳥の囀りと吹き下ろしてくる涼風が心地よい。焼石金剛（1820m）を通過すると樹林帯に入り、険しさを増した山道を塞ぐ木の根と岩を次々と乗り越えて10時半に頂上着。樹木の間で女峰と男体の姿、すぐ傍らに小さな雪渓が見られた。宇都宮ハイキングクラブの三人と出会って群馬と栃木の百名山につい

て話を交わす。昼食後、11時に下山開始。尾根の先には階段の黒い筋と駐車場を囲む雄大な裾野と山並が見晴らされる。12時に階段降り口に到着。赤い山つつじを愛でながら階段を挟む遊歩道を大きくジグザグに降りて、レストハウスで手が痺れるほどの冷水を味わう。

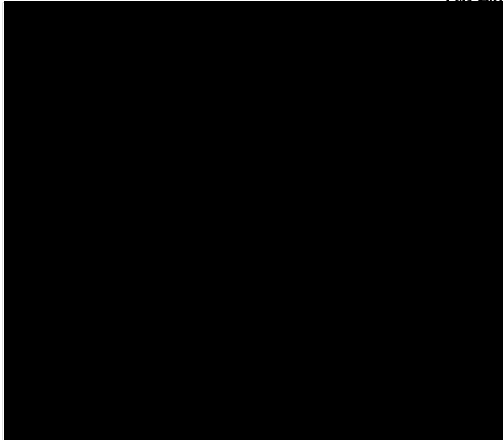
午後1時に出発。帰り道は清滝インターそばの日光市営アルカリ性単純泉「やしおの湯」で、新緑を眺めながら露天風呂につかり足の疲れをほぐしてから2時半出発。やや交通量の増した道を快適にドライブして4時に桐生倶楽部に帰着。車外に出たときの暑さには驚いた。終日好天に恵まれ、贅沢な避暑気分が味わえた。

（山口 一郎 記）



＝ 新入社員紹介 ＝

(敬称略)



森新樹路未だ遠し国境	子供の日数える子等の靴の数	年とりて更衣なる日を忘れ	筍やどちらの家のものかとも	竹の子の皮のみ残す歌かな
久保田 広人	有阪 昌治	塚越 平人	遠藤 勝久	川村 隆
	アルプスの山未だ白し夏木立	涼風の通り抜けたり夏木立	神木の千年杉や夏木立	サッカー場父母の陣取る夏木立
	久保田 広人	塚越 平人	遠藤 勝久	川村 隆

五月

桐生倶楽部はぐるま旬会

六月

雨天変更 松本城を楽しむ
7月の歩く会

今月の西穂高トレッキングは、歩く会と写真部との初めての共催ということもあり、阿部理事長ご夫妻はじめ多くの方々にご参加いただきました。

午前5時定刻に出発。順調にバスは進みましたが、目的地に近づくほどに雲行きは怪しくなり、ロープウェイの新穂高温泉駅の手前でポツポツと雨が降り始め、駐車場に到着頃には滝のような激しい降りとなりました。あまりの荒天に全員登山中止を納得。

雨天時にと用意していた松本市内の観光に変更して、引き返す。松本の天気は問題なく、松本城で記念写真を撮った後、各々2時間30分のフリータイムを楽しみました。午後6時前に全員無事桐生倶楽部に到着。

今回は山歩きも出来ず、美しい風景を撮る事も出来ず、温泉に入る事も出来ずに大変残念な例会となってしまいましたが、これも自然相手のこと、次の機会を楽しみにしておきたいと思ひます。

(栗原 記)



＝ 倶楽部だより ＝

- [6月]**
 - ・歩く会例会「赤薙山」 (1日)
 - ・正副理事長会議 (2日)
 - ・理事会 (3日)
 - ・歩く会世話人会 (5日)
 - ・桐生倶楽部理事とJC理事との懇談会 (10日)
 - ・月次会「桐生市長講演会」 (16日)
 - ・はぐるま旬会 (25日)
 - ・役員特別懇談会 (25日)
 - ・社員増強委員会 (30日)
- [7月]**
 - ・営繕委員会 (7日)
 - ・理事会 (7日)
 - ・重要文化財特別委員会 (11日)
 - ・正副理事長・社員増強正副委員長会議 (23日)
 - ・歩く会例会「西穂高」 (27日)
 - ・月次会「ワインの夕べ」 (28日)
 - ・はぐるま旬会 (30日)
 - ・歩く会世話人会 (30日)

[退社社員] 小島 弘一 廣田須磨子(逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第202号
 2014年(平成26年) 8月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



秋の気配漂う至仏山

歩く会9月例会・尾瀬

9月14日朝5時30分、参加者9名バスで桐生倶楽部を出発。

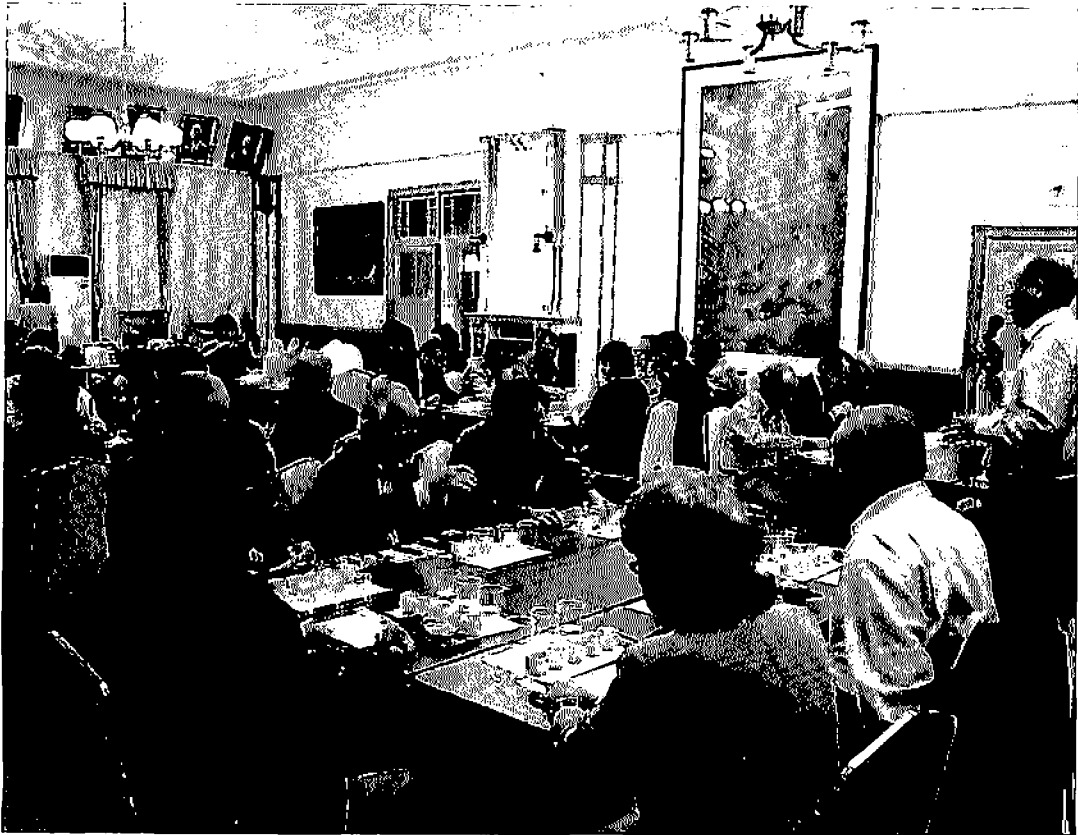
久しぶりの好天のなか、8時15分至仏山を目指して鳩待峠を歩き出す。ここから笠ヶ岳分岐までは樹林帯を通る緩やかな登りで、木道や木の階段が整備されているルートを歩きます。樹林帯を抜けると見通しがよくなり、右に色づき始めた尾

瀬ヶ原、左下には奈良俣ダム湖と変化にとんだ景色を楽しみながらの山行です。

至仏山は岩石が隆起して出来た山で、小至仏山手前から至仏山山頂までは蛇紋岩が露わになった道が続き、とても滑りやすい難所です。そのうえ昨夜の雨で濡れていて、登るのも下るのも大変でした。

(4面に続く)

群馬の地酒のたしなみ方



月次会報告(9月) 秋の宵を堪能

9月の月次会は「日本酒の楽しみ方」。群馬の地酒のたしなみ方をかない屋の金井強さんと桂川醸造元柳澤酒造の柳澤清嗣さんが指南。利き酒やそばで、秋のひと時を満喫した。

この日用意された地酒は藤岡市の高井株式会社
の蔵・純米吟醸、川場村永井酒造場の水芭蕉・純
米吟醸、前橋市の柳澤酒造の結人・純米吟醸無濾
過、太田市の島岡酒造の群馬泉・本醸造、みどり
市の近藤酒造の赤城山・からくち。銘柄あての真
剣勝負では阿部高久理事長と3人の女性が勝ち残
り、理事長が辞退して、3つの商品は女性が獲得
した。(9月22日2階広間、参加者42名)



秋のゴルフコンペ盛況

さわやかな青空のもと、恒例の秋のゴルフコンペが27日、城山カントリー倶楽部で行なわれた。参加者は17人。夜は表彰式、懇親会が行なわれた。

優勝は腰塚富夫さん、準優勝は野沢八千万さん、3位は赤石重男さん、ベストグロは朝倉富美夫さん。



国立新美術館で鑑賞会

桐生倶楽部美術部

オルセー美術館から選りすぐりの名画84点が来日したので美術ファンに人気の同展へ家族をともなった12名が美術鑑賞会を楽しみました。

一行は8月30日(土)に東武新桐生駅を出て乃木坂で下車、新美術館入り口に着きました。

ヨーロッパ近代文化の市民階級の台頭がなされてフランスを中心に近代絵画の意識が胎動した初期から、印象派の誕生が華やかに明るく美術の世界に開かれました。

以後に新しい美術絵画を生み出すまでになったクールベ、コローらの自然主義レアリズムから、カバネル、ブグローらのアカデミズムまでを総集合してコレクションされているオルセー美術館は、パリ万博の駅舎あとにガラス天井の自然光の中の展示でも素晴らしい近代美術館の殿堂です。

この頃シャバンヌを中心に生まれたフランスの新アカデミズムは、黒田清輝を通じて日本の洋画美術を広めたつ

ながりもあり、すぐ後のエコールダパリも繋げて日本への影響は強く、興味は尽きません。

誰にも知られた名画が多く、参加者の半数近くはパリでこれを見てきている愛好者ぞろいで懐かしい思いでも手伝って鑑賞されたようです。

国立新美術館は黒川紀章の設計で作られた大きな先端技術の建築です。

近年は世界中の美術館で美術と食事は同等の芸術的意味を持つ喜びだといわれて素晴らしいレストランを備えるようになっていきます。

ここでもパリで五つ星の「ポール・ボキューズ」を呼び料理とカフェを提供しています。

観賞後全員で楽しくなごやかな歓談を交わしながら賞味して、次回の秋の鑑賞会もこの館で「チューリッヒ美術観展」を鑑賞しようと話が盛り上がりました。

(保倉一郎 記)

オルセー美術館展
印象派の誕生
— 描くことの自由 —

＝ 新入社員紹介 ＝



本格的な山行を満喫

(1面から続く)

10時30分小至仏山に到着。ここから混雑が始まり人、人、人で至仏山山頂まで人が数珠つなぎ、11時50分ようやく山頂に到着。ここも座る所がない状態、山頂標識を入れて写真を撮るのに順番待ちで一苦労。最近の「山ガール」のブームと久しぶりの好天で大変な人出になったと思われませんが、それにしてもすごい数の登山者です。山頂では少し雲が出てきましたが、紅葉し始めた尾瀬ヶ原とその先に至仏山と対峙するようにそびえる燧岳が望め秋の気配が感じられる素晴らしい景色でした。

昼食後12時15分下山開始。下りも大変な渋滞でしたが、15時30分全員無事鳩待峠に下りる。

帰りは出発前に関越道上り線が事故のため通行止めとの連絡がバスに入り、急遽根利を通るルートに変更。

18時30分桐生倶楽部に到着。秋の気配を感じながら往復7時間にわたる、久しぶりの本格的な山行を十分に満喫しました。皆さんお疲れさまでした。(栗原 記)



雲の峰白球追ひし日の遠く	介護終え帰る笑顔の夏帽子	雲の峰その又上へ雲の峰	出張のビル出ること汗ぬぐふ	来竹桃ほのほの白き夜明けかな
久保田広人	有阪 昌治	遠藤 勝久	川村 隆	塚越 平人

黒髪を花火明りにぬすみ見る	走馬灯過ぎたる人の数多し	母遠し昭和も遠し走馬灯	宿近く思ひのほかの大花火
久保田広人	塚越 平人	遠藤 勝久	川村 隆

七月

八月

桐生倶楽部はぐるま句会

＝ 倶楽部だより ＝

- [8月] ・理事会 (4日)
 ・社員増強委員会 (19日)
 ・はぐるま句会 (27日)
 ・夏の美術館鑑賞会 (30日)

- [9月] ・正副理事長・営繕委員長会議 (8日)
 ・理事会 (8日)
 ・歩く会例会「尾瀬・至仏山」 (14日)
 ・歩く会世話人会 (18日)
 ・正副理事長・営繕委員現場説明会 (22日)
 ・月次会「日本酒の楽しみ方」 (22日)
 ・はぐるま句会 (25日)
 ・社員増強委員会 (25日)
 ・秋のゴルフコンペ (27日)

[退社社員] 江原 満

一般社団法人 桐生倶楽部 第203号
 2014年(平成26年) 10月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

月次会の公開、好評



蓄音機コンサート楽しむ

一般公開の月次会が徐々にかたちになりつつある。10月に続いて、11月23日に開催された「蓄音機コンサート」にも多くの一般参加者が集まった。

同コンサートは「北関東蓄音機倶楽部」の協力を得て実現したもので、1919年創建の桐生倶楽部会館で、1910年代から30年代のイギリス製やスイス製の蓄音機を使用し、1920年代を中心としたSPレコードを厳選して楽しもうという趣向だ。

倶楽部が一般社団法人となったのを機に広く市民に向けた活動が求められており、こうした考え方があって、今回も「公開講座」と位置づけた。

当日の2階大広間には、たいへんに珍しいラッパ型、ルミエール460型などの名機が並び、年代物のレコード音楽を心ゆくまで堪能。参加者は37人。その半分以上が一般の参加者。好評を得たことで、倶楽部では今後、このコンサートを定期開催していきたいと考えている。

桐生の植物の諸問題

佐鳥さん、ユーモア交え解説



10月の公開講座

10月の月次会は20日、植物の調査研究を行っている佐鳥英雄さんを講師に招き、「桐生の植物とその諸問題」をテーマに公開講座を開催した。

「桐生市植物誌」の主要著者で長年桐生に自生する植物の調査研究に携わってきた佐鳥さん。

講座では、植物の見分け方や人のかかわりについてなど、ユーモアを交えて解説した。

個体数が減少している自生植物について「滅びそうな植物を守るのはいへん。保護する仕組みができていない」と、渡良瀬川沿いのカワラナデシコをあげ、「種まきや苗植えなどに取り組んでいるが、なかなか育たない」と佐鳥さん。その理由として、人間に摘まれたり、草刈りされてしまったりと、人為的な要因もあるという。

佐鳥さんは、身の回りの植物や生きものたちが古くから歌など文化の世界に息づいてきたことを紹介。これらの動植物がなくなり、自然を失うことは「先人たちが築き上げてきた文化の世界を消

してしまうことにもつながる」と語りかけて、講演を結んだ。参加者31人。

チューリッヒ美術館展へ

10月25日、国立新美術館へ行きました。

スイスの国交樹立150年を記念する展覧会です。20世紀美術の巨匠の作品で、これまで来日の実現しなかった印象派からシュルレアリスムまでの傑作70点以上が展示される期待は予想以上に立派で、入場最初みるセガンドーニのすばらしさにひかれ、進むにつれて秀作の魅力は増し、初めて接するホドラーの1室を占める展示に圧倒され、さらにクレーの魅惑と表現主義・超現実派・抽象主義の傑作にふれました。

(保倉 一郎 記)



錦秋の那須・姥ヶ平 素晴らしい一日に 歩く会10月例会



台風18号の接近を気にしながら4時50分に倶楽部に集合、参加者は11名(内女性5名)である。予定どおり5時に小型バスで出発した。7時30分に那須ロープウェイ駅に到着、15分後に乗車する。ゴンドラの窓から見ると白い雲海が山腹の斜面に覆い被さっている。駅の展望台で270度の広がりて緩やかな円弧を描く雲海を眺めながら記念撮影を行う。風は全くない。

7時55分に抜けるような青空を背に浮かび上がる茶臼山への急な斜面を登り始める。10分程登った地点で左に分かれて山腹をまく道をとる。8時35分に牛ヶ首、9時10分に姥ヶ平に到着。10時35分に沼原分岐で三斗小屋温泉への道と分かれ、その辺に日だまりを見つけて弁当を広げた。

ひと心地ついて30分後に出発。沢をもう一本渡ると、避難小屋に出て樹林帯が終わり、再び急なつづら折りの岩の道となる。息を切らせつつ登りきって、12時30分に茶臼岳と剣が峰の間の鞍部にある峠の茶屋に到着した。左手に朝日岳の凄まじい山容が望まれ、右手には茶臼岳の稜線を人影が点々と動いている。ここからは石ころ道を一方的に下る。沢を隔てた黄色の森に点在する赤の樹木と沢の下った先の緑の裸野の対比が美しい。ガレ道に神経を使いながら下り、14時に全員が駐車場に到着した。今回の最高齢(84歳)の参加者が夫人ともども無事に全コースを踏破されたことを全員で喜び讃えた。

迎いのバスに乗り込み、高速道路までの渋滞も一時間で乗り切って、16時に上河内SAに寄り、17時45分に桐生倶楽部に到着した。台風のことをすっかり忘れるほど終日無風で雲一つない好天の素晴らしい一日であった。

(山口 記)

11月は根本山・熊鷹山

今回の山行は、地元桐生川源流の根本山(1,199m)及び熊鷹山(1,169m)を6名で目指しました。午後からは、雨模様の天気予報を聞き、曇り空の中、AM7時30分に桐生倶楽部を乗用車2台に分乗して出発しました。登山口の不死熊橋を、8時10分に出て林道をしばらく歩くと、中尾根入り口が有りましたが先の雪害で、入り口はテープで封鎖されていました。

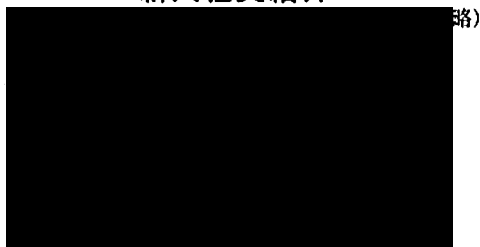
計画を変更して、熊鷹山を目指しました。そのまま林道を、真っ赤に染まったモミジの中、1時間ほど歩いて標識を探しましたが、小さな標識で見つけるのに苦労しました。雨が今にも降りそうな中、登山を開始しました。途中真っ赤なモミジのじゅうたんを踏みしめながら歩きました。

頂上についた頃には小雨が降り出し、カッパを着て休憩を取りました。これ以上先は無理と判断して、11時に下山を始めました。途中昼食をとり、雨を気にしながら、一気に不死熊橋まで下りました。PM1時15分でした。倶楽部にはPM2時30分に全員無事着きました。今回の山行で、あまり有名でない山はいろいろな天災でルートが思いのほか荒れている事が考えられるので、下調べを入念にやる必要性を感じました。

(腰塚 記)



＝ 新入社員紹介 ＝



倶楽部の写真を探しています

重要文化財特別委員会

桐生倶楽部は100周年を間近に控えて、文化財として位置づけられるよう努力しています。

そのため、桐生倶楽部の元の姿や当時の活動の様子がわかる写真等の資料を求めています。

写真では今では分からない床の状態や取り外された3号室の様子などの他、特に戦争中に陸軍によって微発されたシャンデリアなどの照明器具や装飾品などが映り込んでいるものがあればと考えています。

シャンデリアだけでなく、ドアノブまで持って行かれたと言われてますし、玄関左横の窓枠や銅鑼なども持って行かれたようです。これらだけでなく、ともかく桐生倶楽部の写真があれば、それは桐生倶楽部の資料です。

お宅や会社にある写真をひもとして、お調べ頂き、頂けないものはコピーをさせていただければありがたいと存じております。

社員だけでなく、今まで、何らかの形で、例えば結婚式に出席したなどの人が知り合いにいれば、桐生倶楽部の写っている写真が欲しいとお声をお掛けいただければありがたいと考えています。

よろしくお願ひします。

秋季囲碁大会の結果

秋季囲碁大会は11月8日、6名の参加で開催された。結果は次のとおり。優勝＝井上孝之、準優勝＝福永儀一、3位＝田中義弘

名月や一期一会の株の宿	野分け過ぎ明けゆく空の風涼し	名月やいつもの廊下に花を活け	嬰兒を背負ふて出する良夜かな
久保田広人	塚越 平人	川村 隆	遠藤 勝久
菊明り女将も歌ふ株の宿	深みゆく秋の泉に魚の影	どの家も黄菊白菊あふれけり	子鹿連れ母鹿われを見据るけり
久保田広人	塚越 平人	遠藤 勝久	川村 隆

桐生倶楽部はぐるま句会

九月

十月

＝ 倶楽部だより ＝

- [10月] ・ 歩く会例会「那須・姥ヶ平」 (12日)
- ・ 理事会 (14日)
- ・ 月次会「桐生の植物とその諸問題」 (20日)
- ・ 写真部会 (21日)
- ・ 歩く会世話人会 (23日)
- ・ 秋の美術部鑑賞会 (25日)
- ・ はぐるま句会 (29日)
- [11月] ・ 秋季囲碁大会 (8日)
- ・ 歩く会例会「根本山・熊鷹山」 (9日)
- ・ 理事会 (11日)
- ・ 歩く会世話人会 (13日)
- ・ 行事委員会 (17日)
- ・ 写真部撮影会 梅田方面 (18日)
- ・ 社員増強委員会 (18日)
- ・ 月次会「蓄音機コンサート」 (23日)
- ・ はぐるま句会 (26日)
- ・ 重要文化財特別委員会 (27日)

[退社社員] 館 盛治

一般社団法人 桐生倶楽部 第204号
 2014年(平成26年) 12月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツポノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



市文化財指定が前進

平成27年度新年互礼会

阿部理事長が報告

桐生倶楽部の平成27年の新年互礼会が1月4日、開催された。あいさつに立った阿部高久理事長は、3年後に創建100年を迎える会館がことし桐生市から文化財指定を受けられる見通しがついたとし、「市の指定が現実になれば、次は県指定を、さらに国の指定を目指して頑張っていきたい」と抱負を述べた。参加者は68人。

市民の共通理解に基づく会館の保存方法の検討を一昨年から重ねてきた重要文化財特別委員会の運動の結果だ。

また女性社員の数が20人の大台に乗って倶楽部運営の大きな力になっていることを改めて報告し、「女性理事の誕生は近い」と語った。

子どもたち大喜び



恒例クリスマス祭

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭が12月6日盛大に開催され、54人が参加した。

深津素子さんの歌唱指導でクリスマスソングと一緒に歌って楽しんだ後、子どもたちはおいしいごちそう満面の笑顔。サンタからプレゼントをもら

って大喜びだった。

岸芳正さんに記念品

桐生倶楽部新年互礼会の席上、昨年秋の叙勲で瑞宝小章を受章した岸芳正さんに記念品が贈られた。



躍進を祈念

平成27年の
新年互礼会



心地よい初登り 歩く会恒例の吾妻山

今年も昨年と同じく雲一つなく晴れ渡り、しかも無風の1月11日(日)の朝9時30分に吾妻公園駐車場に集合。参加者は合計14名(内女性3名)である。

新年の挨拶と準備体操を済ませて出発。中間点の蔦(とんび)岩に達する迄に、早くも下山して来る人々と行き交い、言葉をかけあう。緩やかな鞍部をゆったりと歩いた後、最後の険しい岩道をやじ登って尾根に出ると、樹木の間には雪渓の白く輝く赤城山が正面に姿を現す。10時30分に男吾妻山頂(491m)に到着。

先客は20人程度。秩父連山の背後に富士山が純白の頭をくっきりと突き出している。東京方面は低い白雲に覆われ、この季節によく見えるはずのスカイツリー、東京タワーと高層ビル群は隠れていた。

標識を入れて記念撮影を済ませて下山開始。女吾妻山山頂(480m)は木陰のため4℃と冷蔵庫並みの温度であった。ここからきつい階段道を村松峠まで下り、さらに暗い杉林の間の荒れた急な細道を慎重に降りて村松沢に出会うと、道は緩やかになって程なく車道に出る。12時に「そば一」に到着して、恒例の新年会を開いた。

冷たい飲み物が喉を快く潤した後、そばと天麩羅を賞味し、1時半に散会。無風の暖かな日射しをたっぷり浴びて心地よい汗をかき、満ち足りた気分が家路についた半日であった。

(山口 記)

東京旅行を満喫

桐生倶楽部歩く会・写真部協賛12月例会は、平成26年12月14日、参加者22名だった。

朝6:30大型バスにて、倶楽部を出発。途中休憩を挟んで8:50に東京・新宿御苑に到着。記念写真撮影後、名残りの紅葉に加え、葉の落ちたプラタナス並木など初冬の庭園風情を満喫した。

11:00明治神宮外苑に移動、聖徳絵画館では明治天皇と昭憲皇太后の事蹟を表した80点の日本画・洋画を鑑賞。

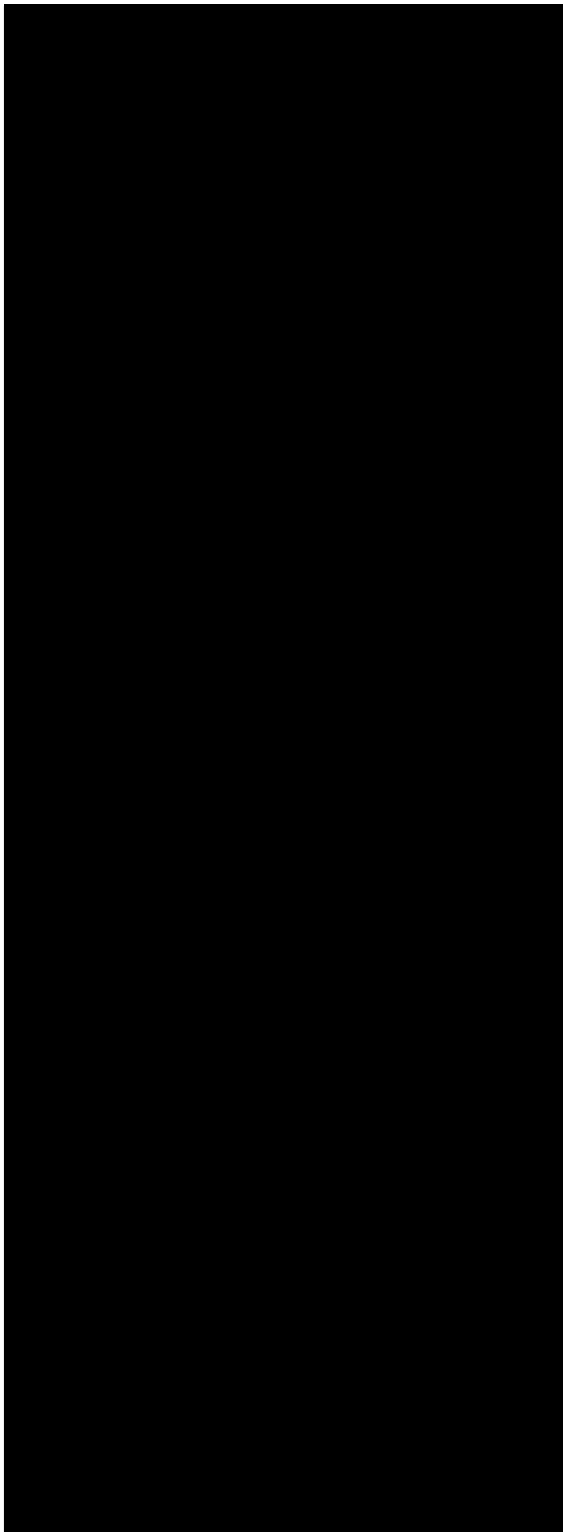
午後、東京駅八重洲口のプリヂストン美術館に移動。抽象画家ウィレム・デ・クーニングの企画展、ほかにも多彩な館蔵コレクションがあって、藤島武二が描いた「黒扇」は一見の価値があった。

昼食は八重洲地下街(ヤエチカ)でフリータイム。15:00には最後の訪問地人形町にある浜口陽三美術館でマニエルノワールという版画鑑賞を楽しんだ。



ようこそ倶楽部へ

＝ 新入社員紹介 ＝
(敬称略)



十一月

桐生倶楽部はぐるま旬会

未枯れの野の広かりし道構振る 遠藤 勝久

大根の白さを競ふ軒端のきばかな 塚越 平人

亡くなりし引き手に代はり大根引く 川村 隆

未枯の松の萩巻く城の後 久保田 広人

十二月

式内の輪の広がりし大焚火 遠藤 勝久

師走とて常には会えぬ人に会え 塚越 平人

名に線引きて別るる師走かな 川村 隆

風邪医者今日の診察早仕舞 久保田 広人

＝ 倶楽部だより ＝

- 【12月】・正副理事長会議 (1日)
- ・クリスマス祭 (6日)
- ・理事会 終了後忘年会 (8日)
- ・歩く会例会「新宿御苑・神宮外苑」(14日)
- ・歩く会世話人会 終了後忘年会 (18日)
- ・はぐるま旬会 (25日)
- ・新年互礼会準備 (26日)

- 【1月】・新年互礼会 (4日)
- ・歩く会例会「吾妻山」(11日)
- ・理事会 (14日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・はぐるま旬会 (28日)

【退社社員】 田中 一男

一般社団法人 桐生倶楽部 第205号
 2015年(平成27年) 2月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



平成27年度定時社員総会 初の女性理事が誕生

平成27年度定時社員総会が2月24日開かれた。役員改選では阿部高久理事長が再任され、また初の女性理事が誕生。事業計画案や予算案などが承認された。

あいさつに立った阿部理事長は、桐生倶楽部会館が桐生市から文化財指定受けられる見通しを明らかにして、時代につなぐ施策を進めていくためにも会員増強にいっそう力を尽したいと語り、協力を求めた。

新役員は次の通り。▽理事長＝阿部高久▽副理事＝森壽作、山口正夫、坪井良廣▽会計理事＝竹内康雄、松島宏明▽理事＝佐藤富三、岸芳正、北川洋、江原毅、根津紀久雄、前原勝、塚越紀隆、

藤江篤、岸田信克、前原勝良、宮地由高、村田豊樹、大西康之、樋口一枝▽監事＝酒井豊、村田勝俊。

女性理事は樋口さん。

桐生倶楽部で女性に門戸が開かれたのは2008年のこと。樋口一枝さんは3人の初代女性社員のうちの一人。「歴史ある桐生倶楽部をしっかりと維持管理して次の世代につないでゆくのが私たちの大きな課題。そのためにも社員の増強につとめていきたい」と抱負を述べた。

阿部理事長は「これからも女性が活動しやすい場を創出していきたい」と話している。

県令楫取素彦と群馬・桐生 村田さんが卓話

今年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公である杉文は群馬県初の県令楫取素彦の後妻となった人である。平成27年度定時社員総会が開かれた2月24日、恒例の卓話で理事の村田豊樹さんが「楫取素彦と群馬・桐生」と題し、講演した。

村田さんは長州藩主の片腕となって働いた楫取素彦の人となりを紹介したのち、楫取が県令としてつとめた8年間（1876～1884）に多胡の古碑の保存や、群馬県師範学校や群馬県衛生所・県立医学校さらに数多くの小学校を設立するなど、文化や教育の普及に尽力した実績から解説した。衛生所・医学校の建物はのちに相生村役場として移築され、現在は「桐生明治館」になっている。

また、就学率の向上の実をあげ、徳育にも熱心に取り組み、産業面においては船津伝次平を駒場農学校教官に推挙するなど、日本の農産業生産力アップに貢献。さらに村田さんは、富岡製糸場の存続にも楫取の努力があったことをあげた。



黒保根の出身で生糸輸出で日米の橋をつないだ新井領一郎は、米国へ渡る際に、楫取の最初の妻である寿から「兄吉田松陰の形見です、兄の魂は太平洋を渡ることによって救われます」と短刀を餞別として渡された逸話も紹介し、卓話を終えた。

寿は文（後に美和子）の姉で1884年に死去。その2年後、文は、楫取の後妻となった。文は15歳の時に松陰門下生久坂玄端と結婚。禁門の変で久坂が自刃し、20歳で未亡人となっていた。

鎌倉アルプスハイキング 歩く会3月例会

桐生倶楽部歩く会3月例会は平成27年3月8日、鎌倉アルプスハイキング。

参加者15名。朝6:30小型バスにて倶楽部を出発。首都高中央環状線が3月7日開通したお陰で都心を通らずに横浜、鎌倉へ行かれる様になった。途中休憩を挟んで10:15に曇空の鎌倉



・建長寺に到着。山門前にて記念写真撮影後、建長寺境内を抜けて「半僧坊」まで。急な階段を登りつめて一気に鎌倉アルプス（天園コース）の稜線へ。

切通しのハイキングコース脇には椿や梅が咲いていた。一か所だけロープを伝って下る場所があって、雨の後の岩は滑り易く要注意。11:20に六国峠茶屋に到着、瑞泉寺山門前で記念写真。鶴岡八幡宮まで歩いて解散、フリータイム各自昼食、八幡宮周辺の観梅、美術館を楽しんだりして、15:30に八幡宮を出発。

渋滞もなく、19:15には全員無事に桐生倶楽部へ帰着。曇空の下でしたが、早春のハイキングを楽しんだ日曜日でした。

(村田 記)



まろやかで美しく

春のコンサート、会館と調和

久々の音学部会だよりです。節分も過ぎ、新春にふさわしい催しとして「桐生倶楽部 新春コンサート」が2月11日（建国記念日）に当館で開かれました。昨年2階用として、ヤマハピアノ（アップライト）の寄贈もあり、これを契機に開いたとも聞いています。

内容は、深津素子氏（ソプラノ・お話し）、新山泰規（トランペット）、峯岸由美氏（ピアノ）。曲目は1部クラーク、バッハ、ヘンデル作曲のもの。2部シーズンミュージック、3部その他。

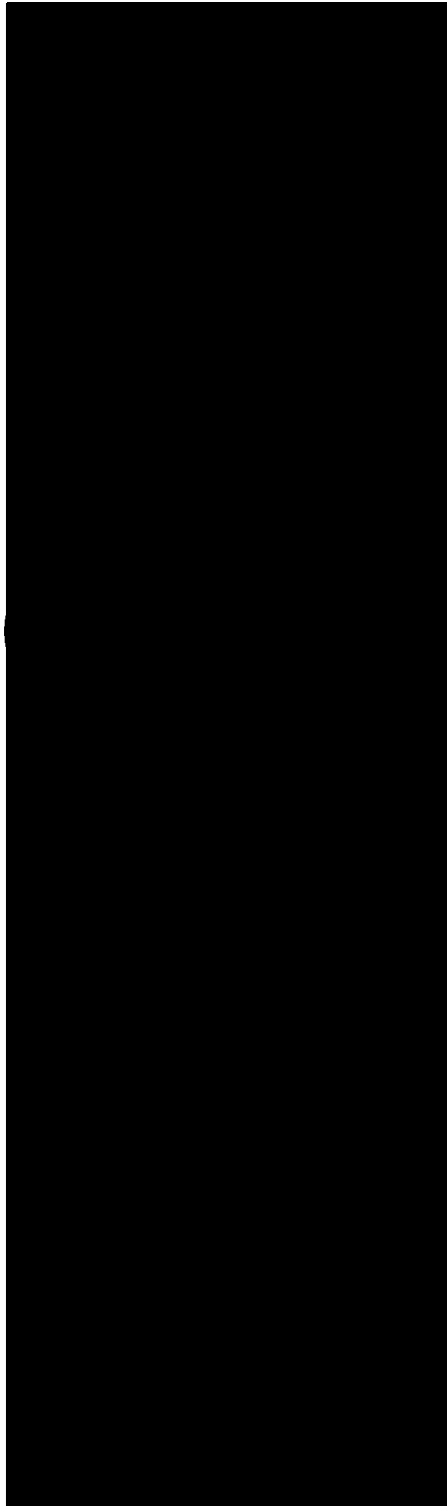
桐生倶楽部の建物そのものが木造建築なので大広間が一つの木箱のように一体となって共鳴し、大変まろやかで美しい残響音となりました。特に少し抑えぎみに吹かれたトランペットと、オペラ並みの素晴らしいソプラノがうまく調和して、久しぶりのクラシックライブを満喫することができました。

来場者は120人余りと近來にない盛況さで、会員はじめ皆さんにより思い出となったことでしょう。（佐藤 記）

ようこそ倶楽部へ

＝ 新入社員紹介 ＝

(敬称略)



所長

27

7

長

長

いたづらも鳥合の衆や寒鴉	初句会老いて元氣な笑顔かな	群れ離れ五葉の松に寒鴉	初句会四方山話に花が咲き
久保田 広人	遠藤 勝久	川村 隆	塚越 平人
まねごとの八宝菜や梅の花	春さきの神社に数人受験生	薄氷と遊びつつゆく登校日	なにもなしただ春寒と言ふ二人
久保田 広人	塚越 平人	川村 隆	遠藤 勝久

一月

二月

桐生倶楽部はぐるま句会

＝ 倶楽部だより ＝

- 【2月】**・監査会 (4日)
- ・音楽鑑賞部会 新春コンサート (11日)
- ・理事会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (19日)
- ・定時社員総会 (24日)
- ・はぐるま句会 (25日)
- 【3月】**・営繕委員会 (2日)
- ・歩く会例会「鎌倉アルプスハイキングと観梅」(8日)
- ・理事会 (9日)
- ・歩く会世話人会 (12日)
- ・はぐるま句会 (25日)

【退社社員】 川島 康雄(逝去) 矢野 昭
 福田 博重 木村 隆夫(逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第206号
 2015年(平成27年) 4月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツボノ印刷株式会社

平成 27 年度 定時社員総会

日時：平成 27 年 2 月 24 日

一般社団法人 桐生倶楽部

次 第

1. 開会のことば

1. 総会成立報告

1. 理事長あいさつ

1. 議長選任

1. 議事録署名人選出

1. 議 事

第1号議案 平成26年度 事業報告

第2号議案 平成26年度 決算報告
監査報告

第3号議案 役員改選
正副理事長互選
新理事長あいさつ

第4号議案 平成27年度 事業計画案

第5号議案 平成27年度 収支予算案

第6号議案 平成28年度 収支暫定予算案

第7号議案 その他

1. 閉会のことば

1. 卓話「県令 楫取素彦と群馬・桐生」

桐生懇話会 委員長 村 田 豊 樹

平成26年度 事業報告

自 平成26年 1月 1日
至 平成26年12月31日

一般社団法人 桐 生 倶 楽 部

- 社員総数 245名（名誉社員0名、正社員245名）
内 訳（法人11社、個人234名）
- 入 社 6名（内法人0）
- 退 社 12名（内法人0）
- 行事・集会 95回
新年互礼会1回、文化祭1回（絵画展、俳句色紙展、写真展、
ゴルフ大会、麻雀大会、囲碁大会）ガーデンパーティー1回、
クリスマス祭1回、総会1回、理事会12回、
正副理事長会議3回、役員特別懇談会1回、
桐生倶楽部とJC理事との懇談会1回、
監査会1回、
月次会7回、
委員会21回
（行事委員会2回、文化活動委員会1回、営繕委員会4回、
会報委員会6回、社員増強委員会5回、
重要文化財特別委員会3回、懇話会）
- 部会44回
（俳句部会12回、歩く会10回、歩く会世話人会11回、
麻雀部会1回、囲碁部会2回と毎週土曜日午後碁会、
写真部会3回、美術部会3回、ゴルフ部会2回、
音楽鑑賞部会、社交ダンス部会）
- そ の 他
会報6回発行

平成26年度

室別使用状況


月	広 間	一 号	二 号	四 号	五 号	六 号	別 館	庭 園	ロ ビ ー	全 館	合 計
1 回数(回)	9	3	4	0	0	10	1	0	0	2	29
月 人数(名)	369	37	38	0	0	64	16	0	0	80	604
2 月	8 308	4 45	7 51	0 0	3 20	6 34	1 16	0 0	0 0	4 23	33 497
3 月	8 312	3 36	13 99	0 0	6 33	2 12	1 14	0 0	1 4	0 0	34 510
4 月	5 212	5 59	7 63	0 0	0 0	15 112	1 16	1 40	0 0	0 0	34 502
5 月	10 322	4 67	3 28	0 0	1 6	10 65	1 15	1 89	0 0	0 0	30 592
6 月	9 383	5 63	6 55	1 3	2 11	12 71	2 25	0 0	0 0	0 0	37 611
7 月	11 609	6 98	12 84	2 8	7 30	14 77	1 18	0 0	0 0	0 0	53 924
8 月	7 367	4 42	3 28	0 0	0 0	11 70	2 27	0 0	0 0	0 0	27 534
9 月	13 506	9 118	6 59	2 14	1 6	9 53	1 17	0 0	0 0	1 8	42 781
10 月	6 233	3 35	5 40	0 0	1 2	11 59	1 18	0 0	0 0	0 0	27 387
11 月	9 349	6 51	7 58	0 0	0 0	10 60	1 13	0 0	0 0	1 13	34 544
12 月	7 256	4 50	4 26	1 3	2 6	6 29	1 16	0 0	0 0	0 0	25 386
合 回数(回)	102	56	77	6	23	116	14	2	1	8	405
計 人数(名)	4,226	701	629	28	114	706	211	129	4	124	6,872

監 査 報 告 書

平成26年度決算報告書の各事項について監査したところ、
その内容は適正なものと認めました。

平成27年2月4日

一般社団法人 桐 生 倶 楽 部

監 事 村 田 勝 俊 


監 事 酒 井 豊 


公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書

一般社団法人 桐生倶楽部
理事長 阿部高久 殿

平成27年2月4日

一般社団法人 桐生倶楽部

監事 村田勝俊 

監事 酒井豊 

私たち監事は、平成26年1月1日から平成26年12月31日までの事業年度の公益目的支出計画報告書に関する監査をいたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2 監査意見

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

役員改選

理事(案)

阿部高久	森壽作	山口正夫	竹内康雄
松島宏明	佐藤富三	岸芳正	北川洋
坪井良廣	江原毅	根津紀久雄	前原勝
塚越紀隆	藤江篤	岸田信克	前原勝良
宮地由高	村田豊樹	大西康之	樋口一枝

監事(案)

酒井豊 村田勝俊

平成27年度 事業計画 (案)

1. 理事会(毎月)・役員特別懇談会(年2回)・監査会(年1回)

2. 主な行事	1月	新年互礼会	歩く会例会
	2月	社員総会	歩く会例会
	3月	月次会	歩く会例会
	4月	月次会	歩く会例会
	5月	文化祭(絵画・俳句・写真等)	ガーデンパーティー (ゴルフ大会・麻雀大会・囲碁大会等) 歩く会例会
	6月	月次会	歩く会例会
	7月	月次会	歩く会例会
	8月		
	9月	月次会	歩く会例会
	10月	月次会	歩く会例会
	11月	月次会	歩く会例会
	12月	クリスマス祭	歩く会例会

3. 委員会

1) 文化活動委員会

- ・文化祭
- ・各種趣味の部会(9部会)
美術部会・俳句部会・麻雀部会・囲碁部会・ゴルフ部会
歩く会・写真部会・音楽鑑賞部会・社交ダンス部会

2) 行事委員会

- ・新年互礼会
- ・ガーデンパーティー
- ・クリスマス祭

3) 営繕委員会

- ・会館の修理保全

4) 会報委員会

- ・年6回 会報発行

5) 総務委員会

6) 社員増強委員会

7) 重要文化財特別委員会

8) 桐生懇話会

9) 百年史編纂特別委員会

寄付芳名録 (敬称略)

平成26年度

3月 ピアノ (U-3) 1台

佐藤 富三

7月 地域社会貢献団体等支援助成金
(300,000円)

公益社団法人 桐生法人会
会長 木村 俊一

10月 文化財保護負担金
(100,000円)

公益社団法人 桐生青年会議所
理事長 岩崎 靖司

一般社団法人桐生倶楽部
定時社員総会報告

平成 27 年度定時社員総会は 2 月 24 日午後 6 時 30 分より二階広間で開催され、満場一致で全議案が原案どおり可決されました。

総会は松島宏明理事の司会で、森副理事長の開会のことばに続き、全社員 253 名中 178 名(委任状 136 名を含む)の出席で総会成立(過半数)を確認したとの報告がなされた。阿部理事長のあいさつのあと、理事長が議長となり議事に入った。

第 1 号議案	平成 26 年度事業報告	(森副理事長)
第 2 号議案	平成 26 年度決算報告	(竹内理事)
	監査報告	(村田監事)
	公益目的支出計画実施報告	(松島理事)
	監査報告	(酒井監事)
第 3 号議案	役員改選	(阿部理事長)
第 4 号議案	平成 27 年度事業計画案	(森副理事長)
第 5 号議案	平成 27 年度収支予算案	(竹内理事)
第 6 号議案	平成 28 年度収支暫定予算案	(竹内理事)

坪井副理事長の閉会のことばのあと 7 時 55 分閉会となった。

承認された 27 年度役員は下記のとおりです。

(理事長)	阿部 高久			
(副理事長)	森 壽作	山口 正夫	坪井 良廣	
(会計理事)	竹内 康雄	松島 宏明		
(理事)	佐藤 富三	岸 芳正	北川 洋	江原 毅
	根津 紀久雄	前原 勝	塚越 紀隆	藤江 篤
	岸田 信克	前原 勝良	宮地 由高	村田 豊樹
	大西 康之	樋口 一枝		
(監事)	酒井 豊	村田 勝俊		
				(太字 新任)

閉会のことばのあと卓話があった。

「県令 楫取素彦と群馬・桐生」 桐生懇話会 委員長 村田 豊樹

午後 8 時 35 分散会となった。

以上



桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

創建時の写真が大事

4月月次会 市重文報告



4月の月次会は27日、「桐生倶楽部会館の桐生市重要文化財指定についての報告会」が開かれ、最初に高橋清晴桐生市教育委員長が挨拶し、小関賢一文化財保護課課長が資料の指定の内容について述べられ、続いて、文化財調査委員の池田和夫氏と大里仁一氏が建物と歴史的背景について述べられました。

指定の内容の説明の後、建物について述べた池田氏の今後の群馬県の重要文化財への道についてのお話は示唆に富んでいました。

耐震の調査の必要性、さらには創建当時の写真が、文化財指定のカギになるかも知れないほど重要ですと言われました。

桐生倶楽部は修理が行き届いていいことですが、一番いいことは、例えば、取り替えたガラスの破片が取ってあった事です。この様に、捨てないで取っておくことが大事な事で復元の時の大事な資料です。

県の重要文化財の指定は、今は明治までを対象にしているというお話でした。それで、大正8年の桐生倶楽部の指定には一つの関門になるということでした。この点の運動も求められています。また、池田さんは、県重要文化財の申請にはもっと詳細な図面が必要になると思うと述べられました。加えて、今後、委員会で構想全体の計画を作ることの必要性に触られました。

桐生倶楽部会館の他と比して良いことは運営主体が90年変わらないことで、文化財ではほとん

ど例がない素晴らしいことだそうです。

最後に、桐生倶楽部建設の歴史的背景について、大里先生は桐生倶楽部50年史を読み込んだうえで、作った人たちの話などを挙げて極めて大切に思う気持ちを述べていただき感動しました。参加者43人。(大西 記)

文化財保護の歩み 館林美術館館長が講演

5月25日(月)、桐生懇話会を桐生倶楽部大広間で開催。群馬県立館林美術館の佐々木正直館長を講師に迎え「文化財保護の歩み」と題しての講演を頂いた。佐々木館長は宮城県出身、慶應義塾大学を卒業後、群馬県立美術館の学芸員を務め、文化庁に転出後は人間国宝の認定に関わるお仕事をされた方である。平成25年からは県立館林美術館の館長を務められている。

講演では、明治4年(1871)に太政官布告・古器旧物保存方が定められて以来いくつかの変遷を経た後、太平洋戦争後の昭和25年(1950)に「文化財保護法」が制定され、さらに改訂を加えられて今日の「文化財保護」の体制に至った経緯が詳しく語られた。

桐生倶楽部会館は4月14日に桐生市重要文化財に指定され、今後は群馬県、国の重要文化財の指定を受けるべく調査・研究を行うわけだが私たちにとっても大変役に立つお話であった。

この講演は新聞に開催告知をして公開講座とした。当日の出席者は18名。

(村田 記)



塚越さんを偲んで

理事長 阿部高久

塚越平人さんが93歳の天寿を全うされました。いかにも塚越さんらしい大往生であったと伺っていますが、桐生の歴史に残る偉大な方を失って悲しみにたえません。

いつも父親に会っているような安らぎを与えていただき、私の生涯の師でした。厳しさと愛情で常に真摯に教えていただき、学ばせていただいた三十有余年でした。

塚越さんは1991年に10代理事長に就任し、16年間務められました。私は1999年に理事、4年後には副理事長として塚越理事長に仕えました。

創立90周年を目前にして、「若い者がしっかりやりなさい」と再三申しておりましたので、バトンを受けて理事長に就任しましたが、いかにも塚越さんらしい身の引き方で、見事という他ありません。

振り返ってみると、塚越理事長の最初の仕事は会館の保存事業でした。まず、2階大広間と1号室の補修工事に取り掛かりました。2階は木造で横桁がかなり密集しておりましたが、地震や大勢の人が集まった時に、果たして大丈夫なのかという不安がありました。当時、桐生瓦斯のガスタンクの修理で来桐していた日本鋼管の技師に、耐震調査を依頼したところ、すぐにでも補強する必要

があるとの調査結果でした。早速塚越理事長のお力で、日本鋼管から鉄柱2本を寄付していただき、かなり頑丈な補強工事ができました。

事実、あの3.11の大地震の時でもびくともしなかった事を見ても、その頑強さが証明されたように思います。

その後も、80周年を控えて屋根瓦の葺き替え、窓枠と外装の塗装など改修工事を行いました。軍の撤収という危機を乗り越え、歳月を経てきた歴史的なこの国登録有形文化財を、後世に残さなければというお考えで、修復事業に積極的に取り組むなど多大な貢献をされました。

また、当時桐生市の玄関である東武新桐生駅に売店がないのは桐生市にとってマイナスで恥ずかしいことだということで、理事会で具体化のための討論を重ね、直ぐに行動を起こしました。塚越理事長のリーダーシップにより、売店「ほほえみ」が誕生しましたが、桐生倶楽部から発信した、相応しい事業だったと思っています。

塚越さんは理事長退任後も、顔を合わせる度に、会館に対して「何か困ったことはないか?」「私に出来ることはないか?」と申しおりましたが、桐生倶楽部に大変な愛着を持っておられた方だとつくづく思います。桐生倶楽部にとっては宝のような存在だったのではないのでしょうか。

塚越さんの後を次いでいる我々としては、その意思を受け継ぎ、桐生倶楽部会館を残していくことが、遺された我々の使命だろうと思います。塚越さん、安らかにおねむりください。



5月10日午後、ガーデンパーティーに先立ち、塚越平人さんに、黙祷がささげられた

共感が意識を変える 片田教授が防災講演



3月月次会

3月の月次会は4月10日、群馬大学理工学部教授の片田敏孝さんが「防災が地域を変える、社会を変える」と題し、講演した。

片田さんは東日本大震災で子どもたちの自主避難を促し、のちに「釜石の奇跡」と呼ばれた自主防災教育について、「共感が意識を変える」と来場者に呼びかけていた。参加者は34人。

災害社会学が専門の片田さんは2004年のインド洋津波調査の直後、三陸沿岸地域での防災教育を始めた。そして、大地震があっても「堤防

があるから逃げない、親も祖父母も逃げないから」と答えていた子どもたちの意識を、大人たちの取り組みを変えていくことから変化させ、釜石の奇跡へとつないでいった。三陸津波の碑を見せて先人がどんな思いで碑を建てたのかを考えさせた。そういう地域文化を伝えてやるのが、防災教育の根底だと解説した。そして桐生地域についても「水害や土砂災害は今年発生するかもしれない。災害で苦勞した先人をしのび、知恵を学び、社会の意識を変えない」と話していた。

明治の森と高尾山へ 4月歩く会

桐生倶楽部歩く会の4月例会は12日、今話題の Powerspot 高尾山を尋ねました。参加者14名。朝6:30小型バスにて倶楽部を出発。関越自動車道、首都圏中央自動車道を通って高尾山ICまで。8:30薬王院自動車折返場駐車場に到着。ケーブルカーにて清滝駅から高尾山駅まで7分の乗車、駅前で記念撮影後の9:30出発。薬王院、高尾山山頂(599米)、もみじ台、一丁平、小仏城山(670米)、小仏峠までをハイキングしました。

小仏峠の真下(トンネル)をJR中央本線が通っています。沿道には山桜が満開となり、ミツバツツジや高尾山固有種の高尾スミレ他たくさんの

花々が目を楽しませてくれました。昼食・休憩の後、同じ道を戻って、山上駅から山麓駅まではリフト下りを利用、14:30に駐車場集合出発。第二の訪問地武蔵陵墓地(旧・多摩御陵)で昭和天皇、大正天皇並びに夫々の皇后のお墓に参拝。15:30出発して18:00に全員無事に桐生倶楽部へ帰着。春のハイキングを楽しんだ日曜日でした。(村田 記)



ようこそ倶楽部へ

= 新入社員紹介 = (敬称略)



盛大に文化展、パーティー

桐生倶楽部恒例の文化祭が8日から3日間開催され、最終日の10日にはガーデンパーティーも開かれて風薫る初夏を心ゆくまで楽しんだ。

今回の文化祭は絵画、写真など45点が出品され、ガーデンパーティーには80人が参加した。また、ゴルフコンペ、春季囲碁大会、麻雀大会の成績優秀者が表彰された。

ゴルフコンペ=優勝は金井強さん、準優勝は森田良徳さん、3位は新見祐三さん。囲碁大会=優勝は岸田信克さん、準優勝は福永義一さん、3位は田中義弘さん。麻雀大会=優勝は石井謙三さん、準優勝は亀山光司さん、3位は米田藤穂さん。



三月

誘われてたった一度の歳取り 川村 隆
 久々の天狗の斜面歳萌ゆ 遠藤 勝久
 負い籠にわさびの丸い顔を見せ 久保田 広人

四月

風光る草原広し古墳群 遠藤 勝久
 選挙カーあわてて逃げる青蛙 川村 隆
 菜の花の中を無言の車椅子 久保田 広人

桐生倶楽部はぐるま句会

= 倶楽部だより =

- 【4月】**
- ・理事会 (7日)
 - ・月次会「防災が地域を変える、社会を変える」(10日)
 - ・歩く会例会「高尾山ハイキングと天皇御陵参拝」(12日)
 - ・歩く会世話人会 (16日)
 - ・春季ゴルフコンペ (18日)
 - ・春季囲碁大会 (18日)
 - ・写真部会 (22日)
 - ・麻雀大会 (24日)
 - ・月次会「桐生倶楽部会館の桐生市重要文化財指定についての報告会」(28日)
 - ・はぐるま句会 (28日)
- 【5月】**
- ・文化展準備 (7日)
 - ・文化展 (8-10日)
 - ・ガーデンパーティー (10日)
 - ・理事会 (11日)
 - ・美術鑑賞会 東京 (15日)
 - ・歩く会例会「迦葉山」 (17日)
 - ・役員特別懇談会 (19日)
 - ・歩く会世話人会 (21日)
 - ・桐生懇話会 (25日)
 - ・はぐるま句会 (26日)
 - ・音楽鑑賞部会コンサート (30日)

【退社社風】 大森 貞夫 塚越 平人(逝去)
海野 正男(逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第207号
 2015年(平成27年) 6月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



楽しみつつ、ハーブ学ぶ

月次会報告(7月) 講師に北川やちよさん

桐生倶楽部の7月の月次会は「ハーブのある暮らしの楽しみ方」と題して8日、K's ガーデン倶楽部(無鄰館)主催でハーバル・ライフ・アドバイザー北川やちよさんを講師にお招きました。

やちよさんは、アメリカでハーブと出合い、身近な香りを通じ環境というものを考えるようになったそうです。現在は無鄰館でさまざまなハーブを育てながら、幅広い人々にハーブの魅力を発信する活動を続けています。

この日の参加者は28人。ガーデン倶楽部のスタッフの協力を得て用意された軽食を味わいながら、その料理に使用するハーブの種類や効能を解説するという手法が楽しく、わかりやすく、大変勉強になりましたし、明るく食事をしたことで何だか体が元気になりました。

ハーブをうまく使って暑い夏を乗り切っていこうと、そんな気持ちにもなりました。

(北川 洋記)

雪溪と鎖場と花あふれる八海山 歩く会6月例会



梅雨入りを心配していたが、雲一つない晴天に心躍らせて4時50分に倶楽部に集合、参加者は7名（内女性1名）である。新しい試みとして桐生ボランティア協議会の中型バスを運転手ごとお借りし、5時に出発した。

北関東自動車道からは上毛三山を始め、遠く雪を頂いた越後の山々までがくっきりと見晴らせる。わずかにまだ真っ白な浅間の上のみ、白雲がかかっている。6時に赤城SA着。関越トンネルを抜けてからも快晴は続く。7時10分に六日町ICを出て、田んぼの間を8km走って八海山ロープウェイ駅に到着。正面に鋸刃のようなハツ峯が我我を手招く。8時20分の始発ロープウェイを降りて展望台に立つ。眼下に若草色に光る水田が広がり、その先には越後駒ヶ岳、巻機山、苗場山などが雪溪の房飾りを垂らし、さらに遠方には北アルプスが白く輝いている。日本海の方には弥彦山の影が見え、そしてその左後ろに佐渡ヶ島がうっすらと浮かんでいる。

8時30分に樹間の濡れた道を登り始める。見上げるに純白の辛夷（こぶし）の花弁が青空に映えている。10時に女人堂着（6合目）、雪溪に入り、柔らかな雪に靴を蹴込んで登る。登山道に

戻るとさらに傾斜が増し、20m余りの鎖場を含む険しい濡れ道をひたすらよじ登る。11時半に千本檜小屋（9合目）に到着。正面にそびえ立つ越後駒ヶ岳の新緑の山肌には、雪解け水を集めた沢が筋を引いて流れ落ちている。すぐ足下には可憐な高山植物が赤、白、黄、青、紫と点在して目を慰める。

小休止の後いよいよハツ峯に取り付く。鎖場を4カ処も乗り越え、最初のピーク地蔵峯（1707m）を経て、1時に隣の不動峯着。主峯の大日岳（1710m）は前日の降雨で道が崩れているとことで断念、昼食とする。30分後に出発、往路と同じ道を快調に下る。女人堂で長い雪溪歩きを終えてぬかるみ道に入り、3時半にロープウェイ駅に到着した。

4時にバス出発。途中の酒屋で地酒八海山と甘酒の試飲を楽しむ。六日町ICから高速に入るが、事故渋滞2時間を経て、月夜野ICから昭和ICまでは一般道を走り、9時半に桐生倶楽部に帰着。かなりきつい山行ではあったが、無風快晴の穏やかな1日に新緑と雪景色を満喫できた。長い渋滞も試飲によるほろ酔い気分でなんとか乗り越えられた。

（山口 記）



違いがわかるワインの夕べ 月次会報告(6月)

6月の月次会ではこの2年にわたり好評をいただいている『ワインの夕べ』を開催。3回目のこの日は、アルザス地方のリースリングワインから始まり、ベルジュラック地区の貴腐ワインまで有名産地のワインを6種類飲み比べた。それぞれのワインの個性、味わい、背景などについて講師の金

井強さん(桐生倶楽部社員)から分かりやすい解説をいただき、お店やレストランなどでのワイン選びの際に役立つ知識を得る機会に恵まれた。阿部理事長をはじめ参加した方からの質問も出て盛り上がる中、テーブルでの会話も弾んでいた。参加者35名。
(村田勝俊 記)

5月は迦葉山 歩く会

5月の例会(毎月第2日曜日)はガーデンパーティーと重複することから、今年は1週間遅れの第3日曜日(5月17日)の実施として参加者10名。今回初めて桐生市ボランティア協議会の10人乗りマイクロバスを借用して午前7時桐生倶楽部から一路沼田市の天狗伝説の迦葉山・弥勒寺へ向けて出発、ルートは赤城南面・空っ風街道経由で関越道赤城ICから沼田ICを経て午前8時半弥勒寺駐車場到着。

駐車場は10年に一度の御開帳の関係からか、少し混んでいる中で各自登山準備の後、拝殿に向かいそれぞれ・思い思いの祈願(安全、…?)をして午前8時50分山頂に向けて登山開始、天気は快晴の絶好の登山日和。登山道は拝殿脇の渡り廊下を潜り本堂の裏から、標高差約400mの結構な急坂のブナなど大木の樹林の中を一步一步登り、倒木などを幾つか超えて和尚岩の下で休憩。

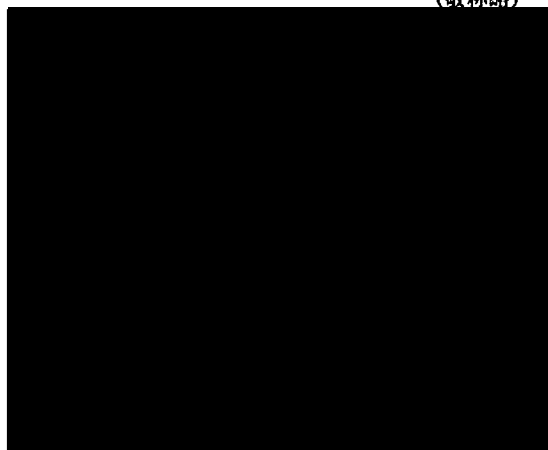
ここより登山道が2方向に分かれ、参加者も一方は割れ目を通る胎内くぐりコース、もう一方は巻道コースでこの二つのコースは和尚岩上で合流し、急登りして10時15分頂上到着、木々の間からの山麓や周囲の山々を眺めながら休憩の後下山、11時半本堂前有志の御開帳秘仏の拝観の後、日帰り温泉「あいのやまの湯」で今日一日の汗を流して、概ね予定通り15時半桐生倶楽部帰着、運転をいただいた腰塚さん、栗原さんに感謝しつつ解散、ありがとうございました。

(新井 記)



ようこそ倶楽部へ

＝ 新入社員紹介 ＝
(敬称略)



桐生倶楽部はぐるま旬会

五月

谷渡る鯉 懺みな尾を下げて
松蟬や淀ませておく午後の水
菊かかげ 一歩一歩の別れかな

川村 隆
山田 耕司
遠藤 勝久

〔おことわり〕 桐生倶楽部はぐるま旬会は
5月27日をもって休会となりました。

初夏の美術鑑賞

ワシントン・ナショナル・ギャラリー展

前日の台風も過ぎ去り、さわやかな五月晴れになって、東武新桐生駅から出掛け、千代田線二重橋駅から数分で会場に着き、混雑している割にはスムーズに入場出来ました、東京より一人参加で6名での鑑賞会でした。

ワシントンDCのスミソニアンから選ばれた日本初38点を含む全68点の展示をゆっくりと鑑賞し細部の描写まで良く見て理解し認識できました。

特にルノワールの秀作が数点もあり、ゴーギャンの自画像の見事な印象派描写に胸打たれカラーやマネの前期とセザンヌまでの後期印象派の移り変わりが比較検討できました。

観賞後全員で館内にあるCafe 1894のレトロな雰囲気のレストランでこの展示会にちなんだ印象派の画風のお皿の上に表現したフランス料理を眼で楽しみ味わい、なごやかな歓談を交わしながら昼食を賞味して、解散し各々白銀庭園美術館・バラ展・マグリット展へ向かい、楽しい一日だった。
(保倉 記)



＝ 倶楽部だより ＝

- 【6月】・歩く会例会「八海山」 (7日)
- ・理事会 (8日)
- ・歩く会世話人会 (11日)
- ・月次会「ワインの夕べ」 (18日)
- ・重要文化財特別委員会 (25日)

- 【7月】・理事会 (6日)
- ・月次会「ハープのある暮らしの楽しみ方」 (8日)
- ・歩く会例会「西穂高」 (26日)
- ・歩く会世話人会 (30日)

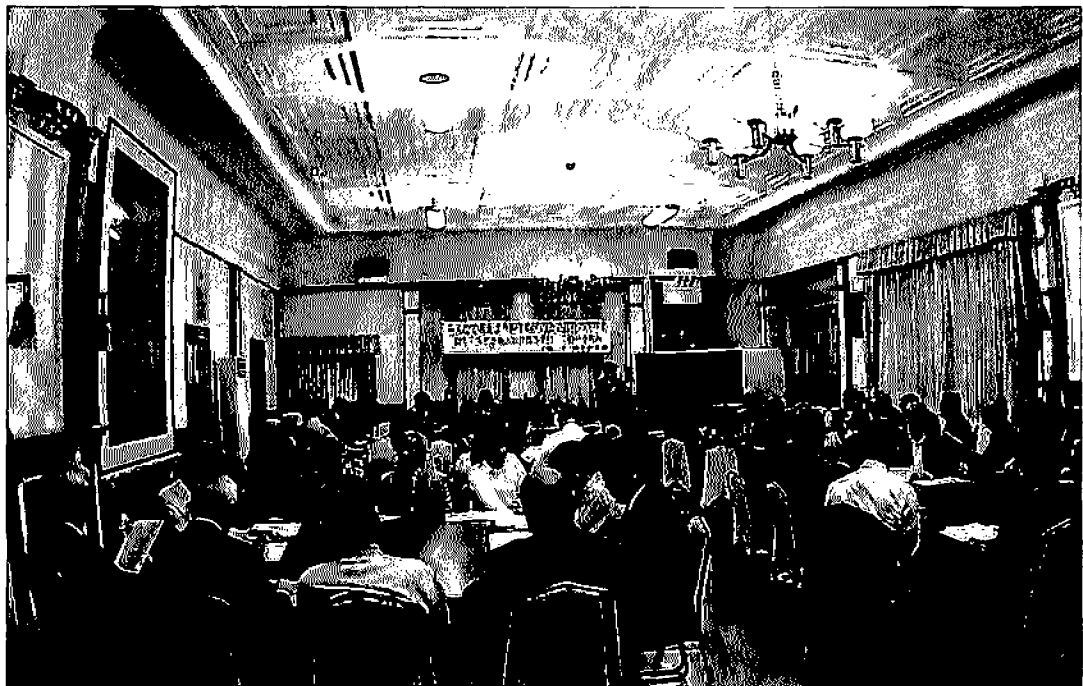
〔退社社員〕 久保田 裕一

一般社団法人 桐生倶楽部 第208号
 2015年(平成27年) 8月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツポノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

高校再編高い関心



一般公開に多数参加

—— 9月の月次会 ——

県教委「桐生はリーディングケース」

少子化が進むなか、桐生・みどり地区の公立高校のあり方が検討されています。群馬県教育委員会の方針では7校を5校に、2016年度をめどに再編整備計画を策定する予定で、地区代表や学校長、PTA・同窓会代表らによる懇談会、検討会を2013年から開いて協議を続けてきました。

桐生倶楽部は9月17日、教育文化都市を目指

す桐生のまちづくりにとっても重要な問題であるとして9月の月次会を一般公開で行い、県教委の説明を受け、出席者が意見を出し合いました。

参加者は76人、市民の関心は大変高く、県教委からは「桐生地区は都市部の再編のリーディングケース」という考え方が示されました。

(4面に続く)

秋色の尾瀬沼



9月の歩く会、静寂の中を一周

降り続きの雨が上がった日曜日の朝5時半にマイクロバスで出発、参加者は7名のうち女性が1名であった。曇り空のもと、渡良瀬川沿いから根利街道に入って、沼田街道を順調に走り、7時半に大清水到着。今年から開通した一の瀬行きのエコバスに乗り換えて8時に出発。樹間に片品川と16世紀の真田氏の時代に遡るといふ旧街道が見え隠れする。3.2kmの道を歩かずに済んだ。8時15分に歩行開始。水だまりの石道と湿った木道を登って9時20分に三平峠着。間もなく林の切れ目に尾瀬沼が姿を現す。尾瀬沼山荘の休憩舎から西に道を取り、右回りの周遊道を辿る。湖面は滑らかでひっそりしている。ただ一度だけ、水鳥の羽ばたきが突然静寂を破った。木道を朽ちた箇所が目立ち、崩落による迂回路もあった。突然森林が切れ、明るい小沼湿原に出る。山頂がこぶのような矮岳が正面に聳え、可憐な小粒の花と大きなワレモコウがあちこちに咲いている。

11時10分に沼尻休憩所に到着し、開放的な

座席で弁当を開く。葦原の先には静けさをたたえた湖面が広がっている。11時40分に出発。尾瀬ヶ原からの道はよく整備され歩きやすい。樹間の軽い登り下りの後、大江湿原に出て、尾瀬に最初の山小屋である長蔵小屋を開いた平野家の墓に立ち寄った。黄色に色づいた葉と綿毛草に囲まれている。この一帯では大きな紫の花のエゾリンドウ、トリカブトが特に目立つ。12時40分に威容を感じさせる長蔵小屋に出て、冷水に喉を潤す。周辺は尾瀬の拠点の一つで木道も広く歩きやすい。すぐに朝の道に出会い、同じ木道を登って1時50分に三平峠に到着。一息入れて下り開始、途中の岩清水の湧き水を味わい、2時50分に出発点の一の瀬に戻った。エコバスで散策とした大清水駐車場に着いた。3時半に出発、往路と同じく一度の渋滞もなく、来年の山行計画などを話しながら5時25分に桐生倶楽部に無事帰着した。歳しかった暑夏を忘れさせる涼秋の一日であった。

(山口 記)

快晴の西穂高



7月の歩く会、トレッキング再挑戦

今回は昨年雨のために断念した西穂高に再挑戦です。午前5時バスで桐生倶楽部を出発。参加者23名の内、半数以上が昨年と同じ顔ぶれ。バスの中では昨年の大雨が話題となり、再び引き返すのではと心配する声も出ましたが、今年こそは大丈夫と期待する。

予定通り午前9時30分、ロープウェイの新穂高温泉駅(標高1,117m)に到着。天気は雲一つない快晴。日本初の二階建て Gondola で一気に千石平(標高2,156m)迄登る。ここは北アルプス槍ヶ岳、穂高岳、焼岳、笠ヶ岳の雄大な山々が間近に迫り、ここでしか見ることの出来ない貴重な景観です。

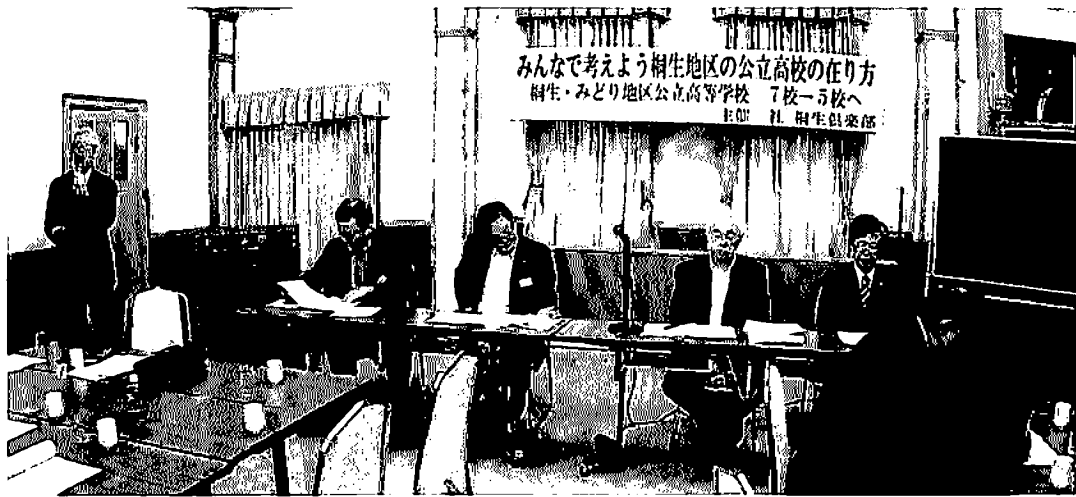
記念撮影ののち、フリータイムとなり、各々北アルプスの自然を楽しむ。健脚組13名は登山届を提出して、西穂高山荘(標高2,385m)を目指して出発。約1時間30分程の行程ですが、

空気が薄い為か、後半の急登では息が上がり大変でした。午後12時過ぎ、西穂高山荘に到着、ここは穂高連峰縦走の基地で、大勢の登山客でにぎわい、またテントも数多く張られていて、北アルプスの人気を感じられました。

昼食後、数人が更に15分の距離にある見晴らしの良い丸山(標高2,452m)に登る。ここからの景色は380度の大パノラマで、穂高連峰から北アルプスの山々、下には上高地が望め、なにか天空に立ったような感覚になり、ダイナミックな景観が満喫できました。

帰りは午後2時30分新穂高温泉駅を出発、予定通り午後7時30分全員無事桐生倶楽部に到着。

絶好の天気に恵まれ、また1年待った西穂高の素晴らしい景色を見ることができ、最高の山行となりました。(栗原 記)



独自のビジョンほしい 参加者から数々の意見

一般公開月次会の講師に招いたのは県教委の小
林智宏・高校教育改革推進係長です。少子化の進
行による高校の小規模化を見通し、桐生・みどり
地区の懇談会は今年1月、高いレベルの進学を目
指す普通高校1校、個に応じた進路を実現できる
普通高校2校、地域産業と連携した特色ある専門
学校を2校とする方針を了承したと説明しました。

うち大間々はみどり市唯一の公立高校として存
続、桐生、桐女、桐南、桐西、桐工、桐商を再編
することになるとし、「他地区のように2校統合
とするか、全校を閉じて新設するかは白紙。校地
は現有施設を使うのが県の方針」だそうです。

これに対し、パネリストの高橋清晴・桐生市教
育長は、「生徒数激減という事実からは妥当な計
画だと思う。女子校の移転と商業の県立移管は再
編整備の検討以前から県に訴えてきた」などと述
べました。

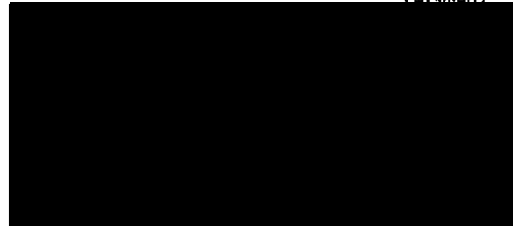
また、山口正夫・桐生商工会議所会頭は「教育
施設と高度医療は人材誘致にも不可欠。ただ数を
減らすのではなく、よりよい環境にするため、商
業と工業を産業学校として、時代にふさわしい専
門性を学べる学校にしてはどうか」との考えを示
しました。

その後は宮地由高理事の司会で意見交換が行わ
れ、「女子校は残し、まちなかに戻すべき」「こ
の地区に必要な理想の学校を描こう」という主張
のほか、小規模校となっても存続する選択をした

沼田の例も示され、また、「県教委は各校の同
窓会に向いて説明してほしい。桐生市は県に任
せず、独自のビジョンを出してほしい」との要望
も参加者から出されました。

= 新入社員紹介 =

(敬称略)



= 倶楽部だより =

[8月]・理事会 (3日)

[9月]・理事会 (7日)

・歩く会例会「尾瀬」 (13日)

・歩く会世話人会 (16日)

・月次会 (17日)

「みんなで考えよう桐生地区の公立高校の在り方」

[退社社員] 常察 英世 星野 正夫

一般社団法人 桐生倶楽部 第209号
2015年(平成27年) 10月発行
発行人 阿部 高久
編集責任者 前原 勝良
印刷 ツボノ印刷株式会社



桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

霧雨の那須を観光



歩く会の10月例会

今回の例会は、日本百名山 那須岳三本槍をめざし、岸田理事・栗原歩く会会長を含め12名で、朝薄暗い霧雨のなかAM5:00に桐生倶楽部を小型バスで出発しました。

途中東北道、上河内SAで休憩を取り予定より早めの、AM7:25にロープウェイ駅に着きました。現地は濃霧で霧雨が降り山頂は見えませんでした。天気予報では昼過ぎまで雨が続き良くなる事はないということで、三本槍への山行は断念しました。しかし近くに見える木々は真っ赤に紅葉していてまことに残念でした。

皆さんで協議しまして、岸田理事の腹案で観光に切り替え、出発しました。硝子の芸術、エミール・ガレ美術館に行く途中、殺生石・那須温泉神社を見学し、AM8:00から開いている鹿の湯へ朝から温泉としゃれ込みました。この湯は41℃~48℃が8箇所に分かれて有り、48℃はピ

リビリして数秒しか入れませんでした。美術館でガラスの芸術を堪能し、昼食は那須 伊王野町の道の駅でそれぞれ食しました。

その後大田原市雲岩寺にある東山 雲巖寺に向かいました。ここは松尾芭蕉が奥の細道紀行で立ち寄った寺としても知られているそうです。二度の火災に遭うも1849年に再興され、広い敷地に一歩足を踏み入ると、静かな中にも荘厳な雰囲気をかもし出していました。同じく大田原黒羽町の大雄寺に寄りました。建物は総茅葺きで室町時代の様式を残す禅寺で、静かな森の中にあり、見ごたえのある建物でした。

観光はここまでで、再び東北道に乗り途中上河内SAに寄り、PM4:30に全員無事に倶楽部に着きました。今回は天候不順で山行は残念ながら中止になりましたが、思いがけない観光が充実していて有意義な一日でした。(腰塚 記)

野田英夫「ニューヨーク・ハドソン川の鉄橋」暮れに公開



月次会報告(10月)

「私と大川美術館」 寺田館長が講演

10月16日(金)の月次会は大川美術館館長・寺田勝彦氏を講師にお迎えして「私と大川美術館」と題する講話を頂いた。

寺田氏は桐生倶楽部の社員でもあるが、東京練馬に自宅があり桐生へは単身赴任とのこと。平成20年に84歳で亡くなられた初代館長・大川英二(1924-2008)氏から二代目館長を指名された経緯を詳しく説明された。大川美術館の館長になるにあたっては、①美術館に常駐する

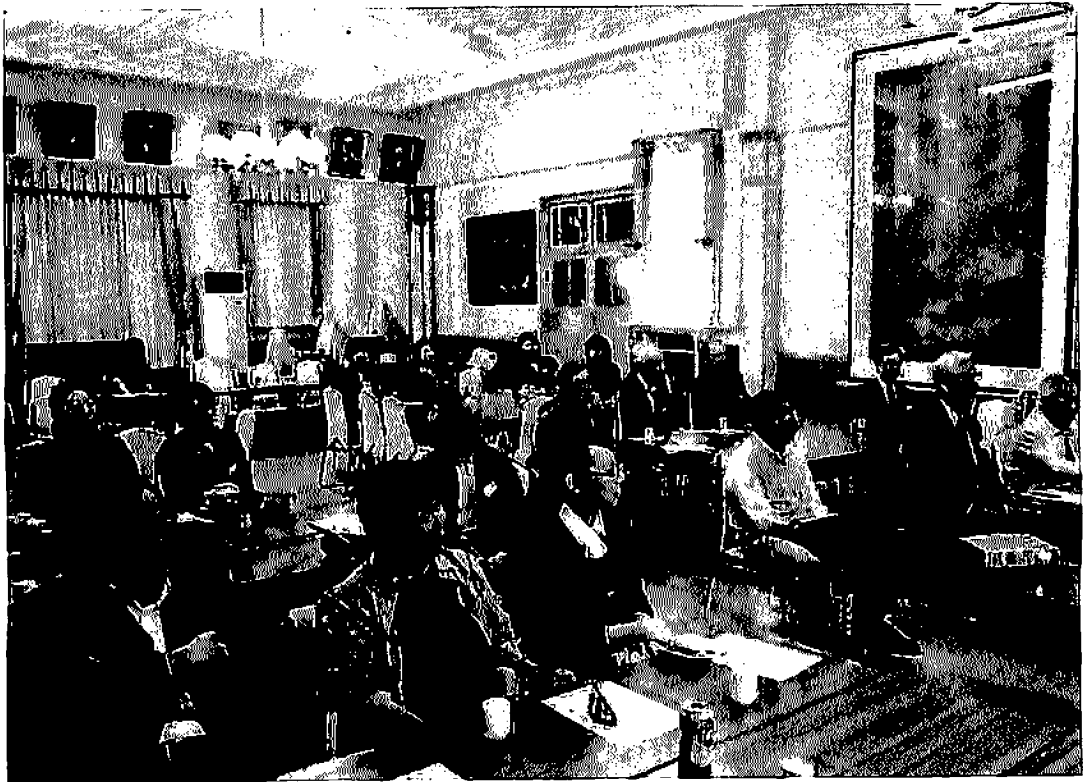
②来館者を呼び込むためのイベントは行わない。
③大川さんが生涯をかけて集めたコレクションを散逸させない、の3条件が出され、これを了承して館長になられたそうである。

寺田さんが学生だった頃、東京麻布の屋外で写生をしていて上品なご夫人から昼食に自宅へ招かれたそう。その家で見たアングル「泉」の模写が寺田さんと美術との関わりのも初だったという。辞去するとき表札を見ると、その家はブリジストンの創業者石橋正二郎(1889-1976)氏の家だったというエピソードが語られた。

講話では、大川美術館のコレクションの中心となっている松本俊介(1912-1948)や日系二世の野田英夫(1908-1939)についての詳細な説明があった。

野田英夫についてはアメリカ・ワシントンDC在住の大学教授・ウェーバー氏により大川美術館に寄贈された「ニューヨーク・ハドソン川の鉄橋」の絵画が修復した後、今年暮れには来館者に公開できる予定、ということで講話をしめくくった。

(26人参加 村田(豊)記)





初期の名機が勢揃い、月次会報告(11月)

第4回蓄音機コンサート

11月の月次会として定着しつつある「蓄音機コンサート」が、「北関東蓄音機倶楽部」のご好意により29日(第4日曜日)に行われた。桐生倶楽部での同倶楽部のコンサートは4回目で、第3回から桐生倶楽部の月次会に組み入れられた。

会場の広間には1910年頃のもの、24年、27年というエジソンが発明し実用化してから30~40年しか経っていない、初期の名機(いずれもイギリス製)が勢揃いするという豪華なもの。

当時の物であるから当然、音質は電気変換しないでSP盤面の凹凸をそのまま拾って音を拡大したもの。従って肉声に近いのが懐かしい。

当日の会場には40人程の参加があったが、意外に若い女性が目立ったのが嬉しかった。若い人を惹きつける節目になるとありがたい。

曲目は26曲あまり、2時間余りをかけたので、そこそこに満足がいただけたのかなと思っている。

まず、地元になんで東海林太郎の「赤城の子守歌」。「G線上のアリア」では高音も低音もきれいに再生されていた。カウント・ベイシーのジャズは、初期の素朴さがあって何とも楽しい。「ホワイト野ばら」では昔の歌い方が懐かしい。「ホワイト

・クリスマス」は3人の競演。パット・ブーンはやや古典的、E・プレスリーは例の独特の歌い、ビング・クロスビーは最も普遍的で、身近さを感じた。シャリアピンの「ヴォルガの舟唄」は声量たっぷりに圧倒されるほどであった。

ここで、少し残念なことを言わせてもらえば、曲目全体が散漫としていて、まとまりがないことである。それにメカ的な説明が多過ぎ鑑賞の雰囲気妨げていた。機器の説明は一回だけで十分である。もっと音楽そのものを楽しむというムードが欲しかった。蓄音機倶楽部の方々はボランティアでどこでも行くというすばらしい人たちだけに、これだけは惜しい。

次回、もし11月の月次会を「蓄音機コンサート」として催すことがあるとすれば、桐生倶楽部のホールにふさわしい格調のある会を望みたい。

むかし、昭和24年から始まった「レコード・コンサート」はすばらしかった。コンサート・ホールのムードただよう、別世界がかもし出されていた。このような「蓄音機コンサート」を夢みている。

(佐藤 記)



秋のゴルフコンペ

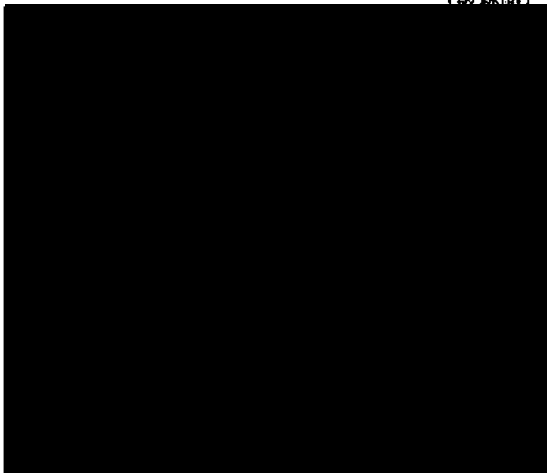
10月31日に恒例秋のゴルフコンペが桐生カントリーで行われました。急に涼しい陽気となりましたが、みんな元気になごやかにラウンドしま

した。

優勝は腰塚富夫、準優勝は朝倉富美夫、3位は野沢八千万、ベストグロは、朝倉富美夫さんでした。秋のコンペは懇親会を兼ねて、にぎやかな表彰式が行われました。

＝ 新社員紹介 ＝

(敬称略)



優勝は福永さん

秋季囲碁大会が10月17日に開かれた。結果は次の通り。

▽優勝＝福永儀一 ▽2位＝岸田信克 ▽3位＝田中義弘

＝ 倶楽部だより ＝

- 【10月】・正副理事長会議 (6日)
- ・美術部会 (6日)
- ・歩く会例会「那須三本槍岳」雨天変更 (11日)
- ・菅沼&正副理事長会議 (13日)
- ・理事会 (13日)
- ・重要文化財特別委員会 (14日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・月次会「私と大川美術館」 (16日)
- ・秋季囲碁大会 (17日)
- ・賛助会員特別委員会 (19日)
- ・行事委員会 (27日)
- ・秋のゴルフコンペ (31日)

- 【11月】・歩く会例会「庚中山」雨天中止 (8日)
- ・理事会 (10日)
- ・正副理事長会議 (10日)
- ・歩く会世話人会 (12日)
- ・月次会「原音で聴く蓄音機コンサート」(29日)

- 【退社社員】 清水貴久(逝去) 山上達也(逝去)
小倉クラッチ(株) 遠藤勝久
八木計二 亀山光司(逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第210号
2015年(平成27年) 12月発行
発行人 阿部高久
編集責任者 前原勝良
印刷 ツポノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

保存活動に新たな決意



市重文指定で道が開けた 平成28年度新年互礼会

桐生倶楽部の平成28年度新年互礼会が1月4日に開催された。あいさつに立った阿部高久理事長は、歴史的、文化的に価値があり桐生の宝である桐生倶楽部会館が、昨年、桐生市から念願の重要文化財の指定を受け、今後の県や国からの指定の道が開けたと語った。

当面の課題は県の指定であり、「その実現のために桐生市をはじめ関係各位のお力をお借りし、

社員の皆さんには桐生倶楽部創建当時の写真など資料の提供などご協力をお願いしたい。スパニッシュ・コロニアル建築で日本最古のこの建物が桐生のまちづくりに大いに力を発揮すると信じ、保存活動を更に頑張っていきたい」と決意を新たにしていた。

参加者は67人。

和やかに恒例クリスマス祭



ミニコンサート、歓談、プレゼント

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭が12月5日開催され、44人が参加、和やかなひと時をともにした。

五十嵐晶子さんのヴァイオリンと荻野久美子さ

んのピアノによるミニコンサートを鑑賞し、クリスマスならではの食事をとりながら楽しく歓談。サンタからプレゼントされた子どもたちもご機嫌の様子だった。

小金井公園、雨の散策 12月の歩く会、バスの旅

毎年恒例の東京近郊のバスの旅、歩く会の一年の締めくくりです。曇りが重くのしかかっていたので少し天気が気になりましたが、朝7時総勢18人で小型バスにて出発、予定より少し早く小金井公園・江戸東京たてももの園に到着しました。ここは平成5年に東京都が江戸東京博物館の分館として開園した野外博物館です。

広い小金井公園内に江戸時代から昭和初期までの貴重な文化遺産である建造物が復元、移築されています。高橋是清邸や下町と山の手の街並み変わらずに残った紅葉と小雨の中に立ち並んでいます。

一時、江戸・明治・大正・昭和とタイムスリップをしたような時を過ぎると次は淨岳山昌楽院深大寺を詣でました。天台宗で本尊は阿弥陀三尊像

で東京都では浅草浅草寺に次ぐ古利だそうです。集合写真を撮りお参りをしているうちに丁度お腹も空いてきたところで深大寺そばを頂くことにしました。辛いものが好きな人は地酒を頂き、おそばだけでは物足りない女性陣は匂いに誘われるままにおそばやさんを後にしました。腹ごしらえをした後は5分程度バスに乗り神代植物公園を散策です。

武蔵野の面影が残る園内には約4800種類、10万本株の樹木が植えられているそうです。小



雨に濡れた落葉を踏みしめながら歩いて行くとダリアが咲いていました。ダリアは夏のものかと思っていたのですが寒い季節にも負けずに一つふたつと数える程度でしたが咲いていました。次に目に入ったのはバラでした。色とりどりのバラが数は少ないですがきれいにしゃんと咲いていました。

最後は中村研一記念小金井私立はげの森美術館で生誕100周年串田孫一の世界をひとしきり堪能しました。はげの森の「はげ」とは小金井市の南部を東西に延びる崖のことだそうです。中村研一は洋画家で戦争画の大家です。串田孫一は詩人であり哲学者であり、随筆家であり画家でもあるそうです。展示されていたのは子ども向けの絵本の「ひとりでやまにいったケン」のやさしくかわいらしい原画と文芸誌「アルプ」の表紙絵で癒されてきました。本日の予定コースはスケジュール通りに運びよいよ帰路につきました。

(武井 記)

吾妻山へ初登山

歩く会 新年顔合わせ

年末から続く晴天無風の登山日和に心躍る1月10日朝。9時25分に吾妻公園駐車場に集合。参加者は昨年と同じ14名(内女性5名)である。駐車場前の白梅が早くも開花している。新年の挨拶

と準備体操を済ませて出発。

哲学の道沿いには赤ツツジが一輪ぼつんと狂い咲いている。中間点の蕨(とんび)岩に達する前にも、元気よく下山して来る生徒たちの集団と何度も行き交う。緩やかな鞍部を一息入れながら進んだ後、最後の険しい岩道をよじ登って尾根に出ると、正面の樹間に無雪の赤城山が姿を現す。

10時30分に男吾妻山頂(491m)に到着。先客は30人程度で賑やか。山頂の標識につけられた温度計は13℃を指し、風は殆どない。遠く秩父連山の背後に富士山が純白の頭をどっしりと突き出している。東京方面には白雲が低くかかり、この季節にしばしば見えるスカイツリー、東京タワー、高層ビル群はその下に隠れている。

記念撮影を済ませて下山開始。きつい階段道を村松峠まで下り、さらに緑の大きな羊歯が点在する杉林の間の急な細道を慎重に降りて村松沢に出ると、道は緩やかになって程なく林道に出る。道端の猪よけの柵が倒されている。

12時に「そば一」に到着して、新年会を開いた。冷たい飲み物で喉を潤した後、漬け物と天婦羅、そばを賞味、懇談し、1時半に散会。この会場は今年が最後になるということだ。快い疲労感を覚えつつ、無風の暖かな日射しのもとを家路についた。(山口記)



師走の美術鑑賞

宵児、ゴッホ、ゴーギャン、セザンヌ

桐生倶楽部美術部は12月18日、東郷宵児記念損保ジャパン日本興亜美術館の企画展「宵児とバリの作品」を鑑賞しました。参加者は8名。

日本のモダン美術の一翼を成した東郷宵児のスタイルは、ファッションに与えた功績は大きく、また彼が初期に生んだシュールレアリズムの甘美な夢は、改めて認識される素晴らしさがあります。

また、ゴッホの「ひまわり」・セザンヌ・ゴーギャンの三点の素晴らしさにひきつけられて、ゆっくりと鑑賞できました。画集で見る印象派の絵の比較と推測するとき感じていることも、原画で見るそれとははつきりした格差を感じます、天才が意識する深さと重複した思考の提示は、計り知れないものがあり、技巧にも大胆な試行が使われていますが、本質の思索の追求が強烈なことを語っています。優れた作品の原画を眼前に視て感動できる鑑賞会を大切にしたいものです。

感想と欲談を、それにふさわしい雰囲気のホテルオークラのレストランに設け、この会のこれからの運営と企画を相談しました。

現地解散後は、各自が汐留ミュージアム・岩波ホールの映画を見に別れ、楽しく師走の一日を過ごしました。(保倉 記)



叙勲・褒章3氏に記念品

桐生倶楽部新年互礼会の席上、昨年春に黄綬褒章を受賞した大澤直也さんと旭日双光章を受賞した新井晴夫さん、また、秋に瑞宝双光章を受賞した八木橋祥价さんの3名の方に記念品が贈られた。

＝ 新入社員紹介 ＝

(敬称略)



＝ 倶楽部だより ＝

- 【12月】・賛助会員特別委員会 (3日)
- ・クリスマス祭 (5日)
- ・正副理事長会議 (7日)
- ・理事会 (7日)
- ・歩く会例会
- 「江戸東京たてももの園、深大寺他」(13日)
- ・美術部鑑賞会 東京 (18日)
- ・写真部会 (22日)
- ・行事委員会 (28日)

- 【1月】・新年互礼会 (4日)
- ・歩く会例会 吾妻山 (10日)
- ・理事会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (14日)
- ・賛助会員特別委員会 (25日)

【退社社員】 海野 圭司 阿部 安雄

一般社団法人 桐生倶楽部 第211号
 2016年(平成28年) 2月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツポノ印刷株式会社

平成 28 年度 定時社員総会

日時：平成 28 年 2 月 23 日

一般社団法人 桐生倶楽部

次 第

1. 開会のことば

1. 総会成立報告

1. 理事長あいさつ

1. 議長選任

1. 議事録署名人選出

1. 議 事

第1号議案 平成27年度 事業報告

第2号議案 平成27年度 決算報告
監査報告

第3号議案 理事及び監事辞任による後任者選任の件

第4号議案 平成28年度 事業計画案

第5号議案 平成28年度 収支予算案

第6号議案 平成29年度 収支暫定予算案

第7号議案 その他

1. 閉会のことば

※ 総会終了後、お正月ドラマ「百年の計～我にあり」で桐生倶楽部室内が使われている重要場面の映像を倶楽部ならではの楽しみ方で鑑賞します。

平成27年度 事業報告

自 平成27年 1月 1日
至 平成27年12月31日

一般社団法人 桐 生 倶 楽 部

- 社員総数 249名 (名誉社員0名、正社員249名)
内 訳 (法人11社、個人238名)
- 入 社 21名 (内法人1)
- 退 社 17名 (内法人1)
- 行事・集会 82回
新年互礼会1回、文化祭1回 (絵画展、俳句色紙展、写真展、
ゴルフ大会、麻雀大会、囲碁大会)ガーデンパーティー1回、
クリスマス祭1回、総会1回、理事会12回、
正副理事長会議4回、役員特別懇談会1回、
監査会1回、
月次会7回、
委員会15回
(行事委員会2回、文化活動委員会、営繕委員会2回、
会報委員会6回、社員増強委員会、重要文化財特別委員会2回、
懇話会1回、百年史編纂特別委員会、賛助会員特別委員会2回)
- 部会37回
(俳句部会5回、歩く会9回、歩く会世話人会11回、
麻雀部会1回、囲碁部会2回と毎週土曜日碁会、
ゴルフ部会2回、写真部会2回、美術部会3回、
音楽鑑賞部会2回、社交ダンス部会)
- そ の 他 会報6回発行

平成27年度

室別使用状況

月	広 間	一 号	二 号	四 号	五 号	六 号	別 館	庭 園	ロ ビ ー	全 館	合 計
1 回数(回)	9	5	3	0	1	12	1	0	0	0	31
月 人数(名)	377	64	19	0	5	73	17	0	0	0	555
2	14	8	5	0	1	11	1	0	0	0	40
月	471	109	45	0	1	54	17	0	0	0	697
3	6	6	6	0	0	14	1	0	0	0	33
月	246	78	51	0	0	69	18	0	0	0	462
4	11	5	6	0	1	12	1	2	1	0	39
月	375	49	34	0	6	69	20	63	3	0	619
5	9	8	3	0	2	12	1	1	0	0	36
月	246	105	19	0	7	74	20	80	0	0	551
6	9	6	6	0	0	9	1	1	0	0	32
月	385	75	50	0	0	61	14	10	0	0	595
7	8	7	3	0	0	9	1	0	0	0	28
月	345	82	31	0	0	52	20	0	0	0	530
8	10	4	3	0	1	8	1	0	0	0	27
月	452	33	36	0	7	36	13	0	0	0	577
9	13	10	3	0	0	11	1	0	0	0	38
月	641	119	36	0	0	50	17	0	0	0	863
10	9	7	3	2	0	13	1	0	0	2	37
月	336	62	25	7	0	62	15	0	0	130	637
11	11	8	3	1	1	6	1	0	0	0	31
月	474	103	30	4	8	28	16	0	0	0	663
12	9	3	3	1	2	12	1	0	0	0	31
月	374	34	31	4	8	62	15	0	0	0	528
合 回数(回)	118	77	47	4	9	129	12	4	1	2	403
計 人数(名)	4,722	913	407	15	42	690	202	153	3	130	7,277

監 査 報 告 書

平成27年度決算報告書の各事項について監査したところ、その内容は適正なものと認めました。

平成28年2月8日

一般社団法人 桐 生 倶 楽 部

監 事 村 田 勝 俊 

監 事 酒 井 豊 


公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書


一般社団法人 桐生倶楽部

理事長 阿部高久 殿

平成28年2月8日

一般社団法人 桐生倶楽部

監事 柯田勝俊 

監事 酒井 豊 

私たち監事は、平成27年1月1日から平成27年12月31日までの事業年度の公益目的支出計画報告書に関する監査をいたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2 監査意見

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

理事及び監事辞任による後任者選任

辞任理事及び監事（案）

理事 松島 宏明

監事 村田 勝俊

後任者選任（案）

理事 村田 勝俊

監事 赤岩 英夫

平成28年度 事業計画 (案)

1. 理事会(毎月)・役員特別懇談会(年2回)・監査会(年1回)

2. 主な行事	1月	新年互礼会	歩く会例会
	2月	社員総会	歩く会例会
	3月	月次会	歩く会例会
	4月	月次会	歩く会例会
	5月	文化祭(絵画・俳句・写真等)	ガーデンパーティー (ゴルフ大会・麻雀大会・囲碁大会等) 歩く会例会
	6月	月次会	歩く会例会
	7月	月次会	歩く会例会
	8月		
	9月	月次会	歩く会例会
	10月	月次会	歩く会例会
	11月	月次会	歩く会例会
	12月	クリスマス祭	歩く会例会

3. 委員会

1) 文化活動委員会

- ・文化祭
- ・各種趣味の部会(9部会)
美術部会・俳句部会(休部)・麻雀部会・囲碁部会・ゴルフ部会
歩く会・写真部会・音楽鑑賞部会・社交ダンス部会

2) 行事委員会

- ・新年互礼会
- ・ガーデンパーティー
- ・クリスマス祭

3) 営繕委員会

- ・会館の修理保全

4) 会報委員会

- ・年6回 会報発行

5) 総務委員会

6) 社員増強委員会

7) 重要文化財特別委員会

8) 桐生懇話会

9) 百年史編纂特別委員会

10) 賛助会員特別委員会

桐生倶楽部会館、新春ドラマスペシャル「百年の計、我にあり
知られざる明治産業維新リーダー伝」に“出演”！
本日は、ダイジェスト版で鑑賞します。

1. 放映日・出演・ストーリーのご紹介

放映日：28年1月3日（日）TBS テレビ、1月9日 BS・TBS
2 時間ドラマ

出演：広瀬幸平役 榎木孝明、伊庭貞剛役 石黒賢
塩野門之助役 浅利陽介、伊庭田鶴役 朝加真由美他

ストーリー：住友家初代総理事広瀬幸平と2代総理事伊庭貞剛が国家と企業の百年の大計を見据えて、別子銅山（愛媛県）の近代化と公害問題解決に取り組む姿を描く。より詳しくは、以下のホームページをご参照ください。

TBS テレビ ホームページ

<http://www.tbs.co.jp/hyakunen-kei/>

見つけやすい検索ワード：「TBS」、「百年の計」

また、広瀬幸平、伊庭貞剛について知りたい方は、次をご参照ください。

住友グループ広報委員会ホームページ

「住友人物列伝 住友の歴史と事業精神」

<http://www.sumitomo.gr.jp/history/person/index03.html>

見つけやすい検索ワード：「住友」、「広瀬幸平(ひろせしょうへい)」。

2. 桐生倶楽部会館の“出演”

1号室、4号室（専用室）、5号室、6号室、2階大広間、階段

約20分出ており、ドラマの会議や主演者間のやり取りなど重要な場面で使われています。

3. その他

桐生倶楽部会館の他、群馬県の各所でロケが行われました。

桐生市では桐生明治館、県内では、みどり市東町花輪の旧今泉家住宅（鉄鋼王・今泉嘉一郎生家）、赤城神社三夜沢、臨江閣など。

（企画担当：村田勝俊）

寄 付 芳 名 録

(敬称略)

平成27年度

7月 地域社会貢献団体等支援助成金
(200,000円)

公益社団法人 桐生法人会
会長 朝 倉 泰

12月 文化財保護負担金
(100,000円)

公益社団法人 桐生青年会議所
理事長 朝 倉 康 行

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



新年度事業案など了承 平成28年度 定時社員総会

平成28年度の定時社員総会は、2月23日開催され、今年度の事業報告と決算報告、ならびに新年度の事業計画案と予算案が了承された。

総会の冒頭であいさつに立った阿部理事長は、桐生倶楽部が創立100周年を迎えるにあたって、「この歴史ある建物を後世に残すべく重要文化財特別委員会において、国の重文をめざし、お陰さまで、昨年には、桐生市指定重要文化財となり、その第一歩を踏み出すことができた」と報告。「これから国の指定を目指すには、全社員の協力が必要で、特に古い時代の写真や資料が不可欠なため、ぜひ提供していただきたい」と協力を求めた。そして、今後の組織強化のためには、賛助会員

や新社員の増強が待ったなしの課題であり、桐生青年会議所やロータリークラブ会員にも声を掛け、ぜひ一人でも多くの仲間を募るよう全社員に呼びかけた。

また、理事及び監事の辞任・選任では、松島宏明理事の後任に村田勝俊理事が、また、村田勝俊監事の後任に赤岩英夫監事が選任され、了承された。

総会終了後には、TBSの新春ドラマスペシャル「百年の計我にあり知られざる明治産業維新リーダー伝の撮影舞台として桐生倶楽部が登場した場面を、村田勝俊理事の解説によるダイジェスト版で参加者全員が堪能した。（記・前原勝）

筑波山頂は冬の様相 3月の歩く会

歩く会、3月の例会は筑波山です。筑波山は百名山では一番低い山（標高877.1m）ですが茨城県のシンボルで関東平野に聳え立つ双耳峰の姿が美しい山です。

3月13日（日）参加者9名は今回も2月に借用利用したNPO桐生市ボランティア協議会が所有するバスを利用して、桐生を予定通り午前6時半に出発、国道50号を東進、途中「道の駅思川」で小休憩して下館から南下して、道路事情も良かったことから予定より随分早い午前8時半過ぎには筑波山神社に到着。ケーブルカーの時間にはまだ早いことから、境内をぶらぶらしながら宮脇駅に来て予定より早い9:20（冬時間の1番）発、約8分の乗車で山頂駅へ。

山頂駅の御幸ヶ原からまず男体山頂（871m）。山頂から女体山を眺めると山頂一帯が白く花が咲いて満開の様子だが今の時期に何か？。御幸ヶ原に戻り最高峰の女体山を目指す、登るにつれて満開の様子が判明、木々の枝が凍っての樹氷です。樹氷のトンネルの中を歩く素晴らしく美しいこと。10:46分女体山頂（標高877.1m）、薄日の天候で富士山は望めず残念、記念の1枚の後、概ね予定通り下山開始。下山はロープウェイ利用と徒歩に分かれるが、徒歩グループは登山道の凍結箇所やグループ登山者との行き違いに時間を費やして予定時間（コースタイム35分）を大幅に超過すること約1時間、真壁の見学は観光ボランティアをお願いしていることから、延着になることを途中から連絡したところ待っていただけということ。

真壁を散策

予定から1時間遅れで真壁着、真壁の散策は約2時間を予定していたが観光ボランティアさんからの提案で概ね1時間コースで案内していただく。真壁も「重要伝統的建造物群保存地区」の町で選定は平成22年・全国で87番目（桐生は平成25年・94番目）で国登録有形文化財の建物も大きく名産の御影石の表示もある豊かさを醸し出す情緒と落ち着きのある雰囲気を感じられ、又、今桐生で問題とされている電柱は地中化されずにあ

る見慣れた景色。（現在の道路幅は江戸時代のまま）街中散策の後は町内の酒蔵（花の井）西岡本店の見学へ、酒蔵ではお雛様を飾って歓迎（真壁ひな祭りは3月3日で終了しているが、この酒蔵では全国各地から頂いたお雛様も多くあるのでいくつかの蔵の中に分散して3月末まで展示・寄贈者が見に来てくれるそうです）。試飲の後、思い思いのお酒を購入して家庭での楽しみを心に帰路へ。途中で「道の駅思川」で小休憩をして桐生倶楽部に予定通り午後5時半帰着。

筑波山の樹氷、真壁観光ボランティアの会長である大久保さんの案内と説明の素晴らしい応対等短い時間ではありましたが楽しさが感じられた筑波山と真壁町の散策でした。

最高峰まで行っていただいた金子さんご夫妻をはじめ参加者の皆さんありがとうございました。

（記・新井）



通りには電柱も外灯もあるが歩車道の区別はない



大きな門と御影石の文化財表示

月次会報告(3月)

医療における情報提供
とスピリチュアリティ慶応義塾大学
看護医療学部

加藤教授が講演



医療者と患者の新しい協働を築く

3月の月次会は22日、慶応義塾大学看護医療学部教授の加藤眞三さんを講師に招き、一般公開例会を開催した。加藤さんは、「医療における情報提供とスピリチュアリティ」と題し、「これからは患者の身体だけでなく、心理面や社会面などからケアしていく全人的医療がいつそう求められる」と語り、情報提供とスピリチュアルケアを強化して、医療者と患者の協働を築きたいとした。

全人的医療はこれまで家庭医や一般診療医の領域であった。しかし、命にかかわる病気を扱う専門医の世界にこそ全人的医療は必要になってきたと、考え方は変わりつつあるという。

難しい決断を助けてくれる人があるという社会的関係性は、患者の健康にとって喫煙禁煙と同じくらいの影響力を持つといわれる現在。加藤さんは、頼れる存在に医療者になることが互いの幸せであって、そのことが従来の管理型の医療を協働に変えていくきっかけになると考えている。

いまは慢性疾患の時代、医療の場は生活の場であり、主導権は患者にある。そのためにも医者と

患者の信頼関係と情報交換は重要だが、実情は医師が忙しすぎて、患者は遠慮しているという。

加藤さんは、この状態を改善していくために専門の肝臓病治療に教室スタイルを導入して情報交換を重ねた。結果は良好で、体験をシェアする関係ができ、患者は勇気づけられ、医療者側にも集団指導で効率よく情報を伝達出来るメリットが生まれた。その効果を認めて厚労省も動き、発展の途についた現在だ。大学のサイトも活用した。

一方で病気を深く知れば、生への根源的な悩みに直面するの人もある。こうした心の懊悩を支えていくのがスピリチュアルケア。患者が新たな価値観を探し、生きる希望につなげていければ「それがいいスピリチュアルケア」と加藤さん。傾聴やグループワークがこれを担う。

大切なのは自立と依存。「依存する相手が増えるときに人はより自立する」と。医療の大きな構造変化の中でケアに求められる医療者の役割を強調した。(2階大広間、参加者30人)

長瀨アルプス経由で宝登山へ

2月の
歩く会



例会は第2日曜日であるが堀マラソンを考慮して第3日曜日の2月21日(日)に実施。参加者12名は昨年6月例会(八海山)に利用したNPO桐生市ボランティア協議会が所有するバスを借用して午前7時桐生から一路長瀨町に向けて出発。途中「道の駅川本」で小休憩して長瀨アルプスの起終点で今日の出発地である萬福寺に予定通り到着。

昨日までのぐずぐずの心配された天候も今日は雲一つない大きな青空の快晴で素晴らしいハイキング日和りに参加者の普段の心がけの良さが見えるような中出発。アップダウンの小さい尾根歩きで長瀨アルプス、尾根では強い横風もあるが気温の上昇から体感では微妙なバランス、一部舗装林道を歩き、最後の急登の200段の階段を上り山頂(497.1m)へ11時到着(予定より30分程度早い)。全員で記念の一枚写真を撮って昼食タイム、青空に映える満開の雛梅と秩父の山並みと両神山を眺めながら昼食の後、宝登山神社奥宮、雛梅の咲く中を通してバスの待つ宝登山神社まで下山。

今日の汗を流す「かんぼの宿・寄居」は見晴らしの良い小高い丘の上で、お湯はさらに最上階にあって眺望の素晴らしさは抜群で今日の汗を流すには最高のお湯に入り、概ね予定通りの時間午後4時少し前に帰着。春を思わせるような今日の天候は参加者の皆さんに素晴らしい思い出の一日となったことでしょう、ありがとうございました。

(記・新井)

＝ 倶楽部だより ＝

[2月]・監査会 (8日)
 ・営繕委員会 (8日)
 ・正副理事長会議 (8日)
 ・理事会 (8日)
 ・歩く会例会「長瀨アルプスから宝登山」(21日)
 ・定時社員総会 (23日)
 ・歩く会世話人会 (25日)

[3月]・賛助会員特別委員会 (2日)
 ・重要文化財特別委員会 (11日)
 ・歩く会例会「筑波山」(13日)
 ・営繕委員会 (14日)
 ・理事会 (14日)
 ・歩く会世話人会 (17日)
 ・3月月次会 (22日)
 「これからの時代を生き抜くために患者のチカラを生かすコツ」
 ・美術部会 (29日)

[退社社員] 五十嵐 健雄(ご逝去) 木村 俊一

一般社団法人 桐生倶楽部 第212号
 2016年(平成28年) 4月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



春のリフレッシュ

恒例文化祭、ガーデンパーティー

桐生倶楽部の恒例、春の文化祭が5月6日から8日まで開かれた。ガーデンパーティーが催された8日は絶好の好天に恵まれて、74人の参加者

はみな、ごちそうを味わい、話をはずませ、新緑香る会館の風情を心ゆくまで楽しんでいた。

(4面に関連記事)

進化するファッションタウン

これまで、そしてこれから

月次会報告(4月)

4月月次会「ファッションタウン桐生の20年」と題して28日、4月月次会が開催された。講師は、20数年前の準備の段階からファッションタウン桐生推進協議会の事務局を担当し、すべての情報と事業を承知している石原雄二商工会議所専務理事で、講演は、映像を示しながら行われた。

桐生商工会議所 石原専務理事が講演

冒頭あいさつに立った阿部高久理事長はファッションタウンについて、「小さいこと」「美しいこと」「極めて個性的な製品を持っていること」「地域資源を活用した個性的であること」「創造的な人材が育てられていること」「安全で快適であること」が世界のファッションタウンに共通していると述べ、20年も前に得られた知見であるが今も桐生のまちづくりの本質と思うと述べた。

講演では、当時、日本商工会議所の元に設立した日本ファッション協会がファッションタウン構想のためのモデル地区に指定した7か所の内に桐生が入った事を受けて、平成5年6年で桐生のファッションタウンビジョンを策定し、桐生商工会議所が事務局を引き受け主体的に取り組むこととなったいきさつにふれた。準備会の段階で、ミラノ、フィレンツェ、ピサ、ピエツラ、コモ、パリとファッションタウンを学び、また、同時多発型イベントの東が地域の活力を生むと21のイベントが集結したファッションウィークを展開。こうした高まりの中、産学官民を合わせたファッションタウン桐生推進協議会が出来、共に現在の桐生のリーダーである会議所の山口正夫会頭が当時運営委員長、阿部高久桐生倶楽部理事長も委員長と主要なスタートメンバーとなった。



こうした議論の中で68のビジョンが生まれ、その中から、ファッションタウン大賞、FTわが町風景賞、一店一作家(一工場)運動プロジェクト、産業観光鋸屋根研究、観光産業マップ、産業観光ツアー、音楽と食のタベ、桐生領主巡検時の料理再現、「子供洋食とぎゅうてん」の復活販売、暮らしの中の物づくり、新里農業交流、わたらせ渓谷鉄道沿線落ち葉掻き、彦部住宅でのまちづくり講演会、工場建築物リノベーション、文化学園での桐生の魅力展、路地裏研究会、人と出会うまち旅ツアー、などなど多彩な事業が行われ、そこに、五感を育み未来のリーダーを養成しようとする未来創生委員会の創造的な各種事業が加わり、桐生ブランド、桐生スタイルの確立に向けた動きも始まった。

そうして、今20年を経て、進化したファッションタウン構想は市民が主役の生活文化創造都市構想へと向かっている。と講演した。

この講演会には鈴木桐生市経済部長の参加も得られ、今後のまちづくりに桐生市行政の参加も期待できる講演会となった。

(参加者43人)

若葉と満開のツツジに彩られた 氷室山、十二山、熊鷹山の散歩



5月の歩く会

4月例会の弥彦山行は悪天候で中止となったが、今回はまずまずの曇り空である。7時過ぎに総勢9名(男6、女3)が3台の乗用車に分乗して桐生倶楽部を出発した。

梅田湖ダムを渡って狭い林間の道を抜け、佐野市に入ってから険しい斜面に垂直に立ち並ぶ杉林と堅固なコンクリート防壁、そして急峻に落ち込む谷の間の作原林道を登り、栃木と群馬との境界の峠に設置された金網扉の前に駐車して、8時50分に歩き出した。斜面の熊笹を横切る快適な細道である。

9時には宝生山(1154m)に到着。樹間に小さな祠があるだけで、眺望はきかない。ヤマツツジのエンジ色の花があちこちに見られる。少し下った小氷室山から再び突起に登って氷室山(1123m)に到着。まだ9時25分である。この頃から青空が広がって遠望がきくようになった。

稜線の斜面を横切るなだらかな道を枯れ葉を踏みしめながら気持ちよく歩く。9時45分に十二山(1143m)に着いて最初の休憩。隣の足利

グループから、ツツジが真っ盛りの熊鷹山まで行くことを勧められ、足をのばすことにする。

道は緩やかな登り下りを繰り返して、さんさんと降り注ぐ日差しに柔らかに光る若葉の緑が目にしみる。それを背景にしてミツバツツジの紫、ヤマツツジのエンジ、そしてゴヨウツツジ(別名シロヤシオ)の白が点点と浮き上がる。さらに、釣り鐘のような花をつけ全体が肌色の銀竜草(ぎんりょうそう)が何輪も見つかる。11時15分に満開のツツジの群落に囲まれた熊鷹山の展望台に登る。標高は1169mとある。東に林道と溪谷、南に渡良瀬川の光る筋、西に康申山、皇海山、根本山、そして北には白根山、男体山、女峰山を初めとする日光の山々が連なっている。

展望台の下の木陰でゆったりと昼食をとって11時55分下山開始。12時50分に駐車場所に戻り、午後1時に発車した。往路の林道を下って、30分後に最初の人家となる蓮山(よもぎさん)の湯に立ち寄る。ゆっくり汗を流し、2時40分に出発、3時30分に桐生倶楽部に戻った。風もない五月晴れの日を満喫した。

(山口記)

テーブルはどこも大にぎわい



文化行事、和気あいあい

春の文化祭は2階大広間で開かれ、会場には絵画や写真など、社員の力作が並んだ。

またガーデンパーティーの席上で、春季囲碁大会、麻雀大会、春のゴルフコンペの成績優秀者が表彰された。結果は次の通り。

【囲碁】▽優勝=井上孝之▽準優勝=田中義弘▽3位=岩崎牧郎【麻雀】▽1位=石井謙三▽2位=養田隆▽3位=鈴木雅也▽ブービー=船山克人

【ゴルフコンペ】▽優勝=朝倉富美夫▽準優勝=茂木秀之▽3位=阿部高久



飾りつけ準備のひとつ



ゴルフコンペの参加者たち

= 新入社員紹介 =

(敬称略)



役

= 倶楽部だより =

- 【4月】・行事・交流委員会 (6日)
- ・理事会 (11日)
- ・新入社員との懇談会 (12日)
- ・正副理事長会議 (12日)
- ・春季囲碁大会 (16日)
- ・歩く会例会「弥彦山」雨天中止 (17日)
- ・賛助会員特別委員会 (19日)
- ・歩く会世話人会 (21日)
- ・麻雀大会 (22日)
- ・春のゴルフコンペ 桐生CC (23日)
- ・写真部会 (27日)
- ・月次会 講演会「ファッションタウンの20年」(28日)

- 【5月】・文化祭 (6~8日)
- ・ガーデンパーティー (8日)
- ・理事会 (9日)
- ・歩く会例会「氷室山・宝生山・十二山」(15日)
- ・JCとの懇談会 (16日)
- ・歩く会世話人会 (17日)

【退社社員】 小泉 琛司 加藤 多佳子(ご逝去)
塚越 紀隆(ご逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第213号
 2016年(平成28年) 6月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



異国の香りを食卓に

7月の月次会 講師に北川やちよさん

軽食を通してハーブの魅力を探ろうと、7月の月次会「異国の香りを食卓に」が7日開かれた。講師はハーバルライフアドバイザー、北川やちよさん、K'sガーデン倶楽部のスタッフが協力した。

北川さんは長年ハーブ栽培を手がけ、植物が持つ香りの魅力をもっと身近に持ち込みたいという思いで、その利用方法の研究を続けている。この日の協カスタッフは北川さんが主宰するガーデン倶楽部で学ぶ女性たちで、本番に備え、何日も前

から準備を重ねてきたという。

参加者は36人。各テーブルに用意されたさまざまな料理とハーブの組み合わせを囲み、北川さんの解説と指導にじっと耳を傾けながら、おしゃべりを楽しみつつ、その味と香りを心ゆくまで堪能。

北川さんは「その土地に適したハーブはきっと健康で豊かな四季折々の暮らしのお手伝いをしてくれるでしょう」と話していた。

鉾と屋台の魅力を語る 「保存と理解と協力を」



6月の月次会 奈良さん、蓮さんが講演

6月の月次会は「桐生祇園祭・屋台そして鉾座」と題し、360年の歴史を誇る桐生祇園祭の関係者が現存する屋台と鉾の文化的価値を解説した。

講師は奈良彰一さんと蓮直孝さん。講師陣は、織都繁栄の象徴である巨大な鉾と屋台を後世に引き継ぐ必要性を強調。「本町のまつりという意識ではなく、誇りある桐生のまつりとして後世に残すために力を貸してほしい」と述べて、鉾と屋台の保存に向けて理解と協力を呼びかけた。

奈良さんは「屋台は東日本最大級で、鉾は関東最大級。その巨大な鉾と屋台が勢ぞろいしたら、

(国内の山・鉾・屋台行事の一括登録を目指す)世界遺産になり得る」と。

また、本町四丁目町会長でもある蓮さんは、同町会の鉾と屋台を展示する本町四丁目商店街振興組合の施設「あーとほーる鉾座」が経営難で閉鎖の危機にある現状を説明、存続の道を模索中とした上で、「桐生祇園祭長い歴史があり、われわれは通過する一世代に過ぎない。さらに素晴らしいまつりとして後世に残すためにぜひ協力してほしい」と語った。

(16日、2階大広間、参加者42人)

湯の丸山と 烏帽子岳へ

歩く会6月例会



6月5日(日)朝6時、参加者9名は桐生倶楽部を小型バスで出発。午前8時20分、湯の丸山登山口の地蔵峠に到着。

この日関東甲信地方は梅雨入りとなったが、天気は時々薄日も射し、夏山登山には丁度よいコンディションとなる。

今日は湯の丸山主峰の南峰(2101m)に先ず登り、そこから10分の北峰(2098m)を往復、その後もう一座の烏帽子岳(2066m)に登って地蔵峠に戻る約4時間のコースを歩く予定。

コース途中の有名なレンゲツツジはまだ蕾でしたが、登山道沿いには沢山のイワカガミの赤い可憐な花が咲いていて、癒されます。午前10時、湯の丸山山頂に到着。湯の丸山はその名の通り丸く穏やかな山容が特徴で、下から見ると簡単に登れそうでしたが、登山道は大きな石のガレ場が続き、思った以上に大変でした。頂上は大勢の登山客で賑わい、道標を入れて記念写真を撮るのも順番待ちです。曇りの為360度のパノラマとはいきませんが、心地よい風が吹き抜け、爽やかな気分を味わう。昼食後、次の烏帽子岳を目指して出発。午前11時25分、烏帽子岳と地蔵峠との分岐点のコルに到着し、ここで烏帽子岳を目指す6人組と、地蔵峠へ下山する3人組に別れる。

登山組は午後12時20分、烏帽子岳山頂に到着。下りも時間がかかり午後2時、予定より1時間30分遅れで地蔵峠に戻る。近くの休暇村嬉恋鹿沢で入浴。広い浴槽で、泉質の良い温泉に入り、

皆生き返った様子。1日2座登るのは、かなり大変でしたが、午後6時全員無事桐生倶楽部に到着。お疲れさまでした。(栗原 記)

初夏の美術鑑賞会

ルノワールの最高傑作「ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」が日本で初展示され、良いチャンスで、強い人気に混雑が心配されましたが、当日それ程でなく、そばによって鑑賞出来て、幸せな喜びを深く堪能出来ました。140年前に描かれたこの絵は、画家が生きた時代への関心を最もよく示す、ダンスホールで陽気に踊る市井の人々の喜びを今に伝えてくれます。近年、すてきな料理が美の芸術の一端だと言われ、国立新美術館の設計者・黒川紀章がフランスの五つ星レストランを呼び寄せて開いた、ポールボキューズで昼食を楽しみ、歓談の一時をすごしました。美術部は今まで以上に、美術鑑賞の対象と質や範囲を広げて、希望者の要望に応えられるよう、広く・楽しい自由な企画を創り、参加者の期待に添えられる活動をしていきたいと思えます。

(6月18日、国立新美術館、参加者11人)



八方池の周りを トレッキング 歩く会 7月例会

学校が夏休みに入って最初の日曜日、長野県白馬岳&八方池を訪れました。参加者21名。

朝5:00小型バスにて倶楽部を出発。北関東道、上信越道、白馬長野道を経て8:30八方アルペンライン・八方駅に到着。ゴンドラとリフトを乗り継いで9:10終点・八方池山荘(標高1830)に到着。ここで記念写真の後解散自由行動、標高2060米の八方池を目指しました。

八方池は雪に押し流された土砂が堆積し、雪解け水・雨水が溜まって出来た天然の池です。空が晴れていれば白馬岳・朽子岳・白馬鎗ヶ岳の三山の他、北アルプスの絶景を眺められるのですが、この日は生憎の曇天で残念!池の周りをぐるっと歩いた後八方池山荘迄登山道を下りました。

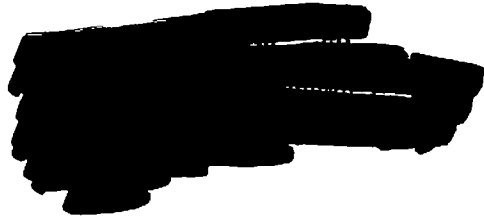
山荘でコーヒー・ビール・昼食を済ませた後、第一ケルン(標高1820)まで散歩。

13:30にアルペンライン(下り)に乗車、13:30バスで八方駅を出発して、18:30には全員無事に桐生倶楽部へ帰着しました。景色を眺められなくて少し残念でしたが、高山植物に囲まれた涼しくて気持ちの良いトレッキングの日でした。

(村田 記)



= 新入社員紹介 = (敬称略)



= 倶楽部だより =

- [6月]**・歩く会例会「湯の丸山ハイキング」(5日)
- ・歩く会世話人会 (9日)
- ・理事会 (13日)
- ・月次会「桐生祇園祭・屋台そして鈴座」(16日)
- ・重要文化財特別委員会 (17日)
- ・役員特別懇談会 (23日)

- [7月]**・月次会「異国の香りを食卓に」(7日)
- ・理事会 (11日)
- ・歩く会例会「八方池周辺トレッキング」(24日)
- ・歩く会世話人会 (28日)

[退社社員] (株)横浜銀行 桐生支店
山鹿 英助

一般社団法人 桐生倶楽部 第214号
 2016年(平成28年) 8月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツポノ印刷株式会社



桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

特徴生かす保存と活用 東京芸大 長尾教授が講演

10月月次会は、先ごろまで文化庁で文化財部
参事官(建造物担当)付 調査部門 主任文化財
調査官をしておられて、文化庁と東京学芸大学と
の交換人事で、今、東京学芸大学大学院教授にな
られている工学博士の長尾充先生を、彦部篤夫さ
ん(国重文彦部家屋敷当主)のご案内で、桐生に
お越しいただきました。

桐生倶楽部としては国の重要文化財指定の任に
当たっておられた方に桐生倶楽部を見ていただき、
同時に近代建築とその保存についての知識を桐生
倶楽部社員の皆様にご覧いただけるようお願いした講
演会でした。

映像が映らないまま始められた講演会になりま
したが、それでも熱心に的確にお話を頂き多くの
知識と今後に対する示唆をいただきました。

日本における近代の夜明けは黒船来航～開国に
よる西洋建築との出会いから始まると説き始めら
れました。この初めの頃特記すべきと思ったのは
日本人による西洋建築として最初に紹介された物
が築地ホテルと三井組為換座(第一国立銀行)で
その設計者は清水喜助(清水建設創業者)である
ことでした。

桐生倶楽部はその流れの中に有り、今の清水建
設の技術者清水巖が設計し、退社して施行まで行
っていますが、その後、子供も孫も清水建設で、
正に明治最初に日本人として近代建築を作設計建
設した清水建設とつながる建築物であったという
事です。

講演はその後、お雇い外国人によるもの、外国
の技術を学んだ日本人による明治政府の建築物、
次いで、北海道の豊平館など全国各地の建築と続



き、そして、有名なコンドルとその子弟による東
京駅などの建設へとつながります。

こうした近代建築の保存とその指定について、
その動きを文化財としての動きの中で解説してい
ただき、まず、昭和36年明治建築の初めての重
要文化財指定は開智学校から始まり、そして、保
護対象は明治から大正に移り、大正13年の建築
物が指定された。今は昭和建築の指定も行われて
いると述べられた。

そうして、こうした推移を見ると50年前くら
いのものから多くの人が大切さと保存の必要性を
感じていることが分ると解説された。

そうしてその後、保存を考えると、モノ～
カネ～ヒトにかかわる問題について述べられ、最
後に、何によって指定されるかその特徴を生かす
保存と活用が大切とお話いただいた。

(参加者53人 記 大西)

100年前のテノールの迫力

蓄音機の名機が勢ぞろい

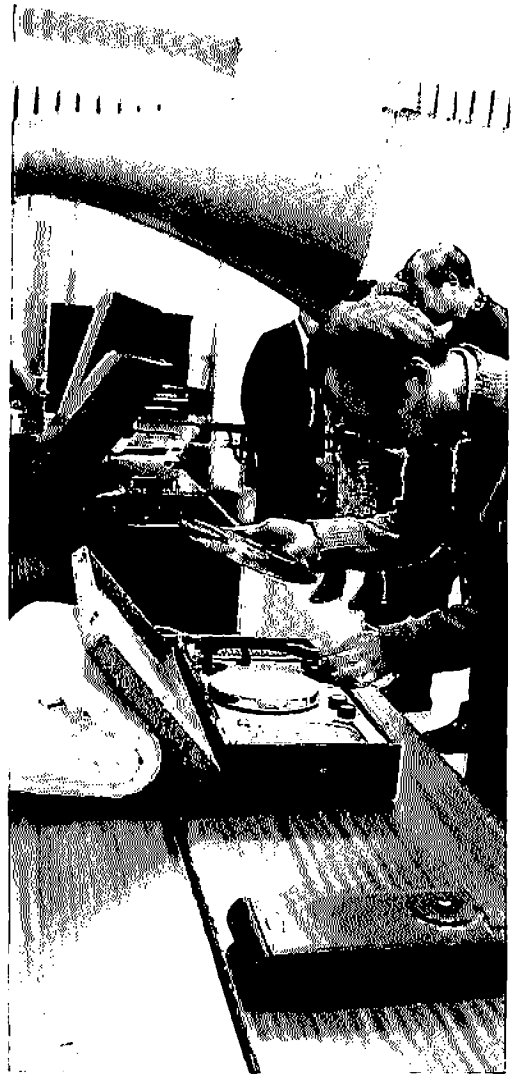


北関東蓄音機倶楽部迎え

北関東蓄音機倶楽部が桐生倶楽部で開催するのは5回目となるのか。音キチとメカキチの愛好集団の同倶楽部は5年前にできて今回が10回目を迎えたという。

4台の珍しい蓄音機が勢揃いしたが、なかでも中心になっているのが某医師の愛蔵機である。1932年製のEMG-M-10Bという名機で、ラッパの最大径が7.4cmあり、音量も多く低音に幅があるという。

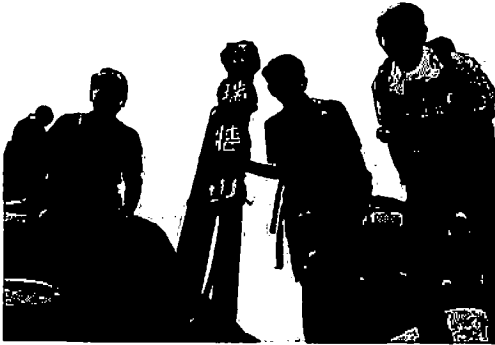
今回はテノール(第1部)が中心で、1世紀も前に活躍したエンリコ・カルソーの“オー・ソレ・ミヨ”やドニゼッティオペラ“道化師”のオリジナル盤とリマスター盤の対比とか1907年をはじめ16年、20年という古盤のものが聴けるとは幸せそのものである。他にジーリ、スキーパーなどのテナーは迫力があって気持ちが良い。近くで歌っているような気分にもなるのは電蓄では味わえない。最後は日本を代表するテナー歌手の藤原義江による“女ごころの唄”や“沖のかもめ”などが懐かしかった。



第2部は手の上に乗るほど小さいのに大音量のポータブル電蓄では、3人(ピング・クロスビー、エルビス・プレスリー、ルイ・アームストロング)の“ホワイト・Xマス”はレコードならではの味わいで楽しかった。

第3部では「持ちより愛蔵盤」が持ち寄られ、有意義な蓄音機コンサートとなり、立ち去り難い魅力を残してのものとなった。隣りの若い女性が「これでワインが飲めれば最高ですね」とささやかれ、納得がいった。

(参加者35人 佐藤 記)



巨岩と紅葉の瑞牆山 歩く会の10月例会

前日まで曇りがちであったが、朝まだ暗き5時に桐生倶楽部をバスで出発。参加者は男5名である。6時40分に佐久ハイウェイオアシスに寄り、高速道を後にして、千曲川沿いの141号線を走る。高校生の耐久レース(甲府一小諾)の一团とすれ違う。街道から曲がって川上村に入ると、日本有数の産出量といわれるキャベツとレタスの畑が広がり、その中を大型のトラクターが走り回って収穫の最中である。信州峠を越えて山梨県に入り、8時40分に瑞牆山荘横の駐車場に到着。8時45分に歩行開始。ミズナラの林間を登り、9時40分に富士見小屋に到着。前回は雨天でここから引き返したが、今回は青空が見える。きのこが点在する樹間を下る。紅葉は始ったばかりである。

10時15分に天鳥川の沢を渡ると、高さ10mの巨大な岩が真ん中で割れた桃太郎岩に出る。ここからの道は岩石だらけの凸凹道で、歩きにくい。傾斜も急となり、我々を悩ませる。喘ぎながら歩を進めると、突然に目の前が開け、行く手を阻むような大きなノッポ岩が出現した。ヤスリ岩である。山頂はこの岩を右にまくとすぐその先であった。正午に到着。巨大な一枚岩である。大勢の先客がいる。とりわけ山の標柱の前には写真の順番を待つ人々が列を作っていた。残念ながら、隣の金峰山、富士山を初めとする南アルプスの山々は望めなかった。しかし時々霧の晴れ間から見える景観は、奇岩の林立している瑞牆山ならではのものではあった。

12時20分以下山を開始して2時35分に富士見小屋に到着。湧き水で元気を取り戻して3時

に小屋を出発。3時40分にバスに戻る。4時に出発し、往路を辿って6時に横川SAに立寄り、渋滞もなく7時20分に桐生倶楽部に帰着した。

(岸田、山口)

嵩山登山スリル満点 歩く会の11月例会

朝7時参加者6名、バスで桐生倶楽部を出発。8時40分嵩山登山口の中之条道の駅「盤山たけやま」駐車場に到着。ここは戦国時代嵩山城として斉藤氏が守っていたが、1565年上田城の真田勢に攻められ斉藤一族は自決したと伝えられている。

今日は表登山口から子天狗、御城の平(本丸跡)、経塚、大天狗(嵩山山頂789m)を経て東登山口に下りる、城跡を訪ねる一周コースを歩く。9時登山開始、今日は雲一つなく風もない絶好の登山日和となる。9時30分子天狗に到着。

ここで毎日この山に登っている中之条の伊藤さんと出会う。伊藤さんは道の駅でボランティアをしているとのことで、親切に嵩山の歴史、自然、見所などを説明してくれました。

伊藤さんの案内で近くにある胎内くぐりに挑戦する。この胎内くぐりの割れ目はとても狭く、身体を横にしても太っている人は通過できず、また入口はクサリを使っても大変な急坂です。我々6人の内1人は鎖場でリタイア、1人は割れ目で動けなくなり、ベストを脱いで前から引いたり後ろから押したりしてやっとくぐり抜けが出来、スリル満点の経験でした。

ここで伊藤さんは下山し、我々は御城の平へ向かう。本丸跡は石仏がコの字に並べられていて、悲劇の舞台となった物悲しさを感じさせる場所です。

(4面へつづく)



(3面からつづく)

最後の大天狗ですが、下から4本の長いクサリが続く難所があり皆慎重に登り、その先5本目のクサリを使ってやっと頂上の女岩に立つ事ができた。苦勞のかいあって、ここからの眺めは360

度遮るものなく上越方面、日光方面の山々も見渡せ素晴らしい景色でした。11時30分全員無事下山。今回は天候に恵まれ、地元の親切な人と出会え、嵩山の歴史に触れることができ、思い出に残る山行となりました。(栗原 記)



優勝は朝倉さん 秋のゴルフコンペ

秋のゴルフコンペが10月30日、赤城ゴルフ倶楽部で行われました。参加者は15人。

天候が少し気がかりでしたが、最高の秋晴れの中、生まれて初めてのスコアを出したメンバーがいて、(本人は大感激でした。)本当に良かったと思いました。

ここ何年かは出席人数も14人から20人くらいと多くの方々の参加を頂き、だいぶ賑々しくなった感があります。

今後もゴルフを通じ、皆様方と、一日楽しく過ごせるような企画を計画したいと考えておりますので、メンバーの方々には来年も、ふるっての参加をよろしく願います。

結果は次の通り。

▽優勝=朝倉富美夫▽ベストスコア=朝倉富美夫▽準優勝=須田忠雄▽3位=彦部恭一

(ゴルフ部会長森田良徳 記)

秋季囲碁大会結果

恒例の秋季囲碁大会が10月29日開かれた。

結果は次の通り。

▽優勝=岩崎孜郎▽準優勝=福永儀一▽3位=岸田信克

= 倶楽部だより =

- [10月]・歩く会例会「瑞麟山」 (2日)
- ・歩く会世話人会 (6日)
- ・理事会 (17日)
- ・月次会「近代建築の保存を考える」(22日)
- ・行事・交流委員会 (26日)
- ・秋季囲碁大会 (29日)
- ・秋のゴルフコンペ (30日)
- [11月]・歩く会例会「嵩山」 (13日)
- ・理事会 (14日)
- ・美術部会 (18日)
- ・歩く会世話人会 (18日)
- ・正副理事長会議 (21日)
- ・月次会「蓄音機コンサート」 (27日)

[退社社員] 柳 利雄(逝去) 木村 光
野口善教(逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第216号
 2016年(平成28年) 12月発行
 発行人 阿部 高久
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツポノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

百周年を意義あるものに



活性化を若い人に託したい

阿部理事長、2月総会で退任の意向

桐生倶楽部恒例の新年互礼会が4日、開催された。あいさつに立った阿部高久理事長は、一年後に迎える百周年に向けて「先人の高い意志と偉業をもう一度学び直し、大きなくくりである百周年を意義あるものにしてほしい」と呼びかけ、あわせて自身の進退にふれて、「組織活性化のために若い人に託したい」と、2月の総会で新理事長にバトンタッチする意向を明らかにした。

阿部理事長の在任期間は10年。百周年を前にした退任は健康問題も理由であると明かし、「この倶楽部の歴史のひとつになったことを誇りに思っています」と、感慨深く結んだ。

また、歴史資料の調査整理が着々と進んでいることも報告し、これを活用し、桐生倶楽部の将来を考えていく上で役立ててほしいと語った。

(阿部理事長のあいさつの詳細は4ページに掲載)



盛大にクリスマス 恒例の祭とパーティー

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭とパーティーが12月10日開催され、65人が参加した。

クリスマス祭は静かな雰囲気の中で森壽作副理事長が聖書を朗読し、深津素子さんの歌唱指導で「諸人こぞりて」「聖しこの夜」を斉唱。

このあと深津さんのミニ・コンサート、そして乾杯を合図にパーティーが始まって、各テーブルは食事を楽しみながらの談笑に花が咲き、マジックの出し物やサンタクロースのプレゼント、福引などで大いに盛り上がっていた。

鹿島神宮他を散策 歩く会12月例会

桐生倶楽部歩く会12月例会は12月11日、鹿島神宮他を散策しました。

参加者15名。朝6:00小型バスにて倶楽部を出発。8:30鹿島神宮到着。平安時代、伊勢・鹿島・香取の三社のみが“神宮”とされていて、ヤマト朝廷にとってこの地がいかに軍事的に北の守りに重要であったかを表しています。ボランティアガイドさんの案内で予定時間はあっという間に過ぎてしまいました。

次の訪問地は日本地図作製で有名な伊能忠敬の出身地、香取市佐原、街中を流れる「小野川」沿いは小江戸と呼ばれる風情に相応しい建物が並んでいる「重伝建」地区です。ここでは軽食、写真撮影、お土産購入などを楽しんでフリータイム。

最後の訪問地は佐倉市・川村記念美術館。広大な庭園の中にワインセラーを思わせる白い瀟洒な美術館がありました。美術館では特別展「レオナルド・フジタとモデルたち」が開催されていました。因みに今年は藤田樹治(1886-1968)の生誕130年にあたり、日本各地で回顧展が開かれています。

予定通り19:00に倶楽部帰着。忙中間あり、晴天に恵まれた年末の楽しいバス旅行でした。

(村田 記)



新春無風、吾妻山初登り



樹間には静かに赤城山

歩く会恒例の顔合わせ

年末から続いた晴天の後の曇り空、無風の静かな1月8日(日)の朝9時25分に吾妻公園駐車場に集合。参加者は15名(内女性3名)である。

新年の挨拶と準備体操を済ませて9時40分に出発。中間点の鷹(とんび)岩で一息入れる。東京方面には黒雲がかかっている。さらに急坂を登って緩やかな鞍部にかかるると足が軽くなる。再び険しい岩道をやじ登り、尾根に出ると、正面の樹間に赤城山が静かな姿を現す。10時30分に男吾妻山頂(491m)に到着。

先客は20人程度。風は全くない。遠方視界は一面の灰色で、去年ははっきりと見えた秩父連山も富士山も隠れている。記念撮影を済ませて10時40分下山開始。女吾妻を経由して、きつい段

差の長い階段道を下りて村松峠に達する。

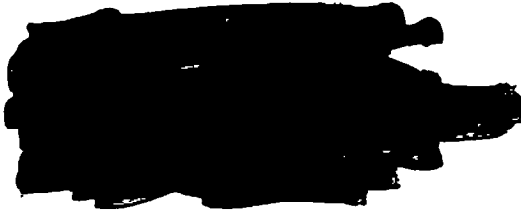
ここからは寒々と立ち並ぶ杉林の樹間に緑の大きな羊歯が点在する細いつづら道である。徐々に傾斜がゆるくなり、枯れ葉と枯れ枝を踏みしめて歩を進める。かたわらの村松沢の水はちよろちよると流れている。熊笹のやぶから猪が飛び出す光景が一瞬頭を掠める。

12時に西小正門前の「万来軒」に到着して、新年会を開いた。初めての会場である。冷たい飲み物で喉を潤した後、中華料理を賞味、歓談し、1時半に散会。快い疲労感を覚えつつ、人影まばらな午後の通りをゆっくりと家路についた。雨が降り出したのは夕方であった。

(山口記)

＝ 新入社員紹介 ＝

(敬称略)



阿部理事長あいさつ詳細

私は桐生倶楽部の理事長を10年務めてまいりましたが、健康の問題もありまして、2月の総会で新しい理事長にバトンタッチすることになりました。やはり組織というものは若い人に託していかないと活性化いたしません。私は百周年を目前に退任いたしますけども、長い間積み重ねられてきたこの倶楽部の歴史の一つになったことを誇りに思っているわけでありませう。

1年後には百周年を迎えます。この百周年を意義あるものにするためには、この倶楽部の歴史をもう一度学び直して、大きなくくりである百周年をお迎えになっていただきたいと思ひます。

二つだけ申し上げます。

一つは、桐生倶楽部一階のロビーのシャンデリアのことですが、そこに掲げられている文字、倶楽部の創立の精神ともいふべきPHF（平和、幸福、親睦）の3つの言葉を、みなさんもう一度見直していただきたいと思ひます。

70年前、松下幸之助はPHPという社会運動を開始いたしました。フレンドシップとプロスペリティー（繁栄）の一字違いはありますが、松下理念の軸を一つにしたものを、桐生倶楽部はそれより30年も前に打ち出しているわけですから、私たちの先人は本当にすごいんです。

歴史は長くいろんなことがあつて、我々はこの歴史をしっかりと学ばなければならないし、学べば学ぶほど、先人の高い志と、偉業のすごさに身が縮む思ひです。

もうひとつ、大目標は（会館の）、国の重要文化財指定ということですが、そのために作られた重要文化財特別委員会がいま取り組んでいるのは歴史の資料を調査整理する事業です。倉庫には

たくさんの資料があります。そこで、大里仁一先生を通して桐生市の文化財保護課にお願いし、昨年8月から、図書館の調査員のみなさんが真剣に整理して下さい、かなり進んでいます。

約1000点の資料が出てまいりました。そのなかには桐生懇和会の資料やアルバムなどもあつて、来年3月までにパソコンに打ち込んでみなさんが見られるように何とかするという事ですから、ご期待ください。

どうか、この資料を利用していただいて、桐生倶楽部をもう一度見直して、そして桐生倶楽部の将来を考えていただきたいと思ひます。国の重要文化財の指定に向けた申請の大きな武器になるのではないかとわくわくしています。

＝ 倶楽部だより ＝

【12月】・クリスマス祭	(10日)
・歩く会例会「鹿島神宮」	(11日)
・次期役員予定者会議	(12日)
・理事会	(12日)
・次期役員予定者会議	(19日)
・写真部会	(20日)
・重要文化財特別委員会	(21日)
・新年互礼会準備	(28日)
【1月】・新年互礼会	(4日)
・歩く会例会「吾妻山」	(8日)
・理事会	(10日)
・歩く会世話人会	(12日)
・重要文化財特別委員会	(23日)

【退社社員】 金谷 欣三 (逝去)
木島 清 (逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第217号
2017年（平成29年）1月発行
発行人 阿部 高久
編集責任者 前原 勝良
印刷 ツボノ印刷株式会社

平成 29 年度 定時社員総会

日時：平成 29 年 2 月 23 日

一般社団法人 桐生倶楽部

次 第

1. 開会のことば

1. 総会成立報告

1. 理事長あいさつ

1. 議長選任

1. 議事録署名人選出

1. 議 事

第1号議案 平成28年度 事業報告

第2号議案 平成28年度 決算報告及び監査報告
平成28年度 公益目的支出計画実施報告及び監査報告

第3号議案 役員改選
正副理事長互選
新理事長あいさつ

第4号議案 平成29年度 事業計画案

第5号議案 平成29年度 収支予算案

第6号議案 平成30年度 収支暫定予算案

第7号議案 その他

1. 閉会のことば

※ 総会終了後、卓話「みんなの茶の間」

NPO桐生市ボランティア協議会 会長 宮地由高

平成28年度 事業報告

自 平成28年 1月 1日
至 平成28年12月31日

一般社団法人 桐生倶楽部

社員総数	252名（名誉社員0名、正社員252名） 内 訳（法人10社、個人242名）
入 社	13名（内法人0）
退 社	10名（内法人1）
行事・集会	83回 新年互礼会1回、文化祭1回（絵画展、俳句色紙展、写真展、 ゴルフ大会、麻雀大会、囲碁大会）ガーデンパーティー1回、 クリスマス祭1回、総会1回、理事会12回、 正副理事長会議3回、役員特別懇談会1回、 倶楽部とJC理事との懇談会1回、新入社員との懇談会1回、 監査会1回、次期役員予定者会議2回、 月次会7回、 委員会20回 （行事・交流委員会5回、文化活動委員会、営繕委員会2回、 会報委員会6回、社員増強委員会、重要文化財特別委員会4回、 懇話会、百年史編纂特別委員会、賛助会員特別委員会3回） 部会30回 （歩く会10回、歩く会世話人会11回、 麻雀部会1回、囲碁部会2回と毎週土曜日碁会、 ゴルフ部会2回、写真部会2回、美術部会2回、 音楽鑑賞部会、社交ダンス部会）
そ の 他	会報6回発行

平成28年度

室別使用状況

月	広 間	一 号	二 号	四 号	五 号	六 号	別 館	庭 園	ロ ビ ー	全 館	合 計	
1 回数(回)	7	8	3	1	1	10	1	0	0	0	31	
月 人数(名)	266	79	23	7	7	60	12	0	0	0	454	
2 月	5 240	11 130	6 49	0 0	3 12	7 34	1 15	0 0	0 0	1 50	34 530	
3 月	8 418	7 88	6 39	0 0	1 3	10 55	1 14	0 0	0 0	1 60	34 677	
4 月	6 210	8 97	7 62	1 4	2 10	13 69	1 18	1 45	0 0	2 146	41 661	
5 月	6 332	10 107	5 41	0 0	0 0	10 60	2 24	1 69	0 0	8 454	42 1,087	
6 月	6 292	5 58	5 55	1 2	0 0	9 52	1 12	0 0	0 0	0 0	27 471	
7 月	8 361	9 97	1 9	0 0	0 0	8 43	1 16	0 0	0 0	0 0	27 526	
8 月	10 460	1 10	3 34	2 12	0 0	6 27	1 15	0 0	0 0	0 0	23 558	
9 月	9 425	7 65	5 49	5 23	0 0	10 50	1 15	0 0	0 0	2 70	39 697	
10 月	7 278	9 92	2 21	2 10	0 0	9 49	1 15	0 0	0 0	0 0	30 465	
11 月	10 470	6 62	5 39	2 5	0 0	11 81	1 15	0 0	0 0	0 0	35 672	
12 月	8 380	5 77	4 29	3 15	0 0	9 55	1 11	0 0	0 0	1 50	31 617	
合 計	回数(回) 人数(名)	90 4,132	86 962	52 450	17 78	7 32	112 635	13 182	2 114	0 0	15 830	394 7,415

監 査 報 告 書

平成28年度決算報告書の各事項について監査したところ、その内容は適正なものと認めました。

平成29年2月1日

一般社団法人 桐 生 俱 楽 部

監 事 酒 井 豊


監 事 赤 岩 英 夫


公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書

一般社団法人 桐生倶楽部
理事長 阿部高久 殿

平成 29 年 2 月 1 日

一般社団法人 桐生倶楽部

監 事 酒井 豊 

監 事 赤岩 英夫 

私たち監事は、平成 28 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日までの事業年度の公益目的支出計画報告書に関する監査をいたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2 監査意見

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

役員改選

新理事（案）

佐藤富三	森壽作	山口正夫	北川洋
坪井良廣	根津紀久雄	前原勝	藤江篤
岸田信克	前原勝良	宮地由高	村田豊樹
村田勝俊	水越稔幸	小林康人	栗原信治
森末廣	桑原志郎	高梨静江	市川孝江

新監事（案）

酒井 豊 赤岩英夫 阿部高久（顧問）

平成29年度 事業計画 (案)

1. 理事会(毎月)・役員特別懇談会(年2回)・監査会(年1回)

2. 主な行事	1月	新年互礼会	歩く会例会
	2月	社員総会	歩く会例会
	3月	月次会	歩く会例会
	4月	月次会	歩く会例会
	5月	文化祭(絵画・俳句・写真等)	ガーデンパーティー (ゴルフ大会・麻雀大会・囲碁大会等) 歩く会例会
	6月	月次会	歩く会例会
	7月	月次会	歩く会例会
	8月		
	9月	月次会	歩く会例会
	10月	月次会	歩く会例会
	11月	月次会	歩く会例会
	12月	クリスマス祭	歩く会例会

3. 委員会

1) 文化活動委員会

- ・文化祭
- ・各種趣味の部会(8部会)
美術部会・麻雀部会・囲碁部会・ゴルフ部会
歩く会・写真部会・音楽鑑賞部会・社交ダンス部会

2) 行事・交流委員会

- ・新年互礼会
- ・ガーデンパーティー
- ・クリスマス祭

3) 営繕委員会

- ・会館の修理保全

4) 会報委員会

- ・年6回 会報発行

5) 総務委員会

6) 社員増強委員会

7) 重要文化財特別委員会

8) 桐生懇話会

9) 百年史編纂特別委員会

寄 付 芳 名 録

(敬称略)

平成28年度

7月 地域社会貢献団体等支援助成金
(200,000円)

公益社団法人 桐生法人会
会長 朝 倉 泰

12月 文化財保護負担金
(100,000円)

公益社団法人 桐生青年会議所
理事長 坪 井 良 樹

一般社団法人桐生倶楽部 役員一覧

平成29・30年度

理事長	森 壽作		
副理事長	坪井 良廣	前原 勝	宮地 由高
会計理事	村田 勝俊	市川 孝江	
理 事	佐藤 富三	山口 正夫	北川 洋
	根津紀久雄	藤江 篤	岸田 信克
	前原 勝良	村田 豊樹	水越 稔幸
	小林 康人	栗原 信治	森 末廣
	桑原 志郎	高梨 静江	
監 事	酒井 豊	赤岩 英夫	阿部 高久(顧問)

一般社団法人桐生倶楽部
定時社員総会報告

平成 29 年度定時社員総会は 2 月 23 日午後 6 時 30 分より二階広間で開催され、満場一致で全議案が原案どおり可決されました。

総会は前原勝理事の司会で、山口副理事長の開会の言葉に続き、全社員 248 名中 186 名(委任状 138 名を含む)の出席で総会成立(過半数)を確認したとの報告がなされた。阿部理事長の挨拶のあと、理事長が議長となり議事に入った。

第 1 号議案	平成 28 年度事業報告	(坪井良廣副理事長)
第 2 号議案	平成 28 年度決算報告	(村田勝俊理事)
	監査報告	(赤岩英夫監事)
	平成 28 年度公益目的支出計画実施報告	(村田勝俊理事)
	監査報告	(酒井豊監事)
第 3 号議案	役員改選	(阿部高久理事長)
	正副理事長互選	
	新理事長あいさつ	
第 4 号議案	平成 29 年度事業計画案	(坪井良廣副理事長)
第 5 号議案	平成 29 年度収支予算案	(村田勝俊理事)
第 6 号議案	平成 30 年度収支暫定予算案	(村田勝俊理事)

第 1 号議案から第 6 号議案の各議案のすべてが承認された。

宮地理事の閉会の言葉のあと 7 時 55 分閉会となった。

なお、承認された理事及び監事は下記のとおりです。(太字は新任)

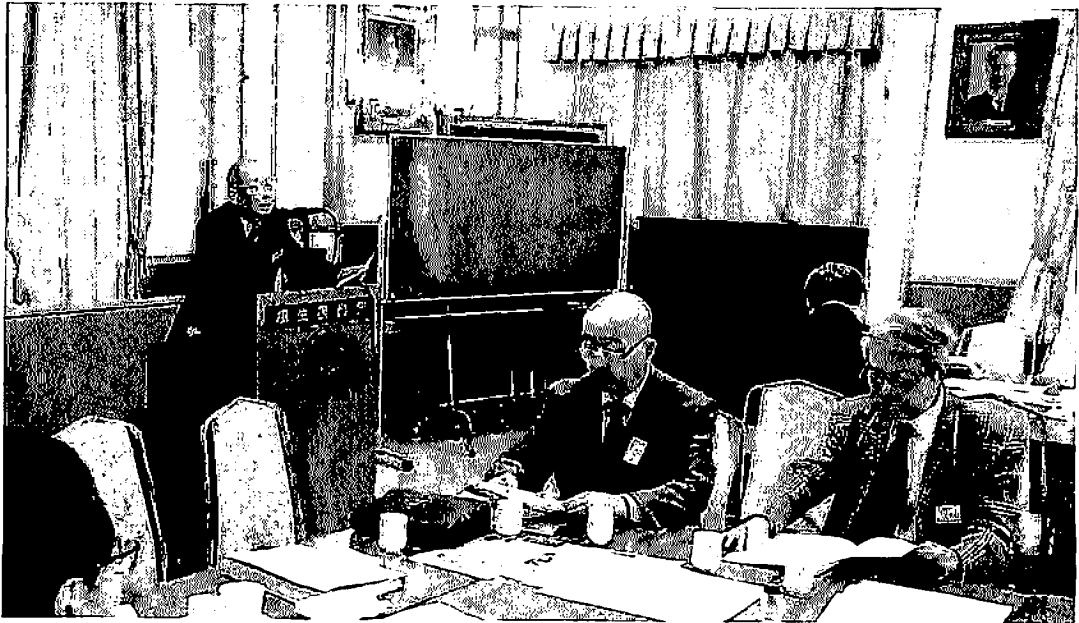
理事長	森 壽作			
副理事長	坪井良廣	前原 勝	宮地由高	
会計理事	村田勝俊	市川孝江		
理 事	佐藤富三	山口正夫	北川 洋	根津紀久雄
	藤江 篤	岸田信克	前原勝良	村田豊樹
	水越稔幸	小林康人	栗原信治	森 末廣
	桑原志郎	高梨静江		
監 事	酒井 豊	赤岩英夫	阿部高久	

総会終了後、NPO 桐生市ボランティア協議会会長 宮地由高氏による卓話「みんなの茶の間」の講演があり、午後 8 時 40 分に散会した。

以 上

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



新理事長に森壽作氏 創立100周年体制整う

桐生倶楽部の2017年度定時社員総会が2月23日に開催され、2018年の倶楽部創立100周年に向けた役員体制が整いました。第12代理事長に就任した森壽作氏は「事の重大さを痛感している。社員相互の親睦を深め、会員増強を図り、建物の管理運用に務めていきたい」と語りました。

森理事長の曾祖父は桐生倶楽部創設に多大な貢献があった森宗作氏。「曾祖父の肖像画に見守られて、緊張と共に感動を覚えます。話し合いを大切にし、100周年事業への対応、会館の国重文指定に向けた研究、女性社員をはじめとした社員の増強に力を入れていきたい」と、新理事長の抱負を力強く述べました。

また阿部高久前理事長は5期10年のあゆみを振り返って「みなさんの協力に感謝します」とあいさつし、「100周年事業も国の重文指定への取り組みもこれからが正念場です」と、新体制への協力を求めました。

2017、18年度の新体制は次の通り。

▽理事長=森壽作 ▽副理事長=坪井良廣、前原勝、宮地由高 ▽会計理事=村田勝俊、市川孝江
▽理事=佐藤富三、山口正夫、北川洋、根津紀久雄、藤江篤、岸田信克、前原勝良、村田豊樹、水越稔幸、小林康人、栗原信治、森末廣、桑原志郎、高梨静江 ▽監事=酒井豊、赤岩英夫、阿部高久(顧問)

桐生自然観察の森から吾妻山へ

—— 2月の歩く会 ——



桐生倶楽部歩く会2月の例会は第三日曜日の2月19日に川内の「桐生自然観察の森」を散策し、吾妻山から鳴神山へ行く「関東ふれあいの道」を経由して吾妻山へ行くコースです。

桐生駅北口10時7分発の名久木行きバスに乗り込みました。小さなかわいいバスです。会員7人と何人かの地元の人で座席はいっぱいになってしまいました。青空の中バスは快適に進み、約15分で観察の森に到着、2人の会員と合流し総勢9人になりました。広場ではバードウォッチングを楽しむ人達で大変なにぎわいでした。

ネイチャーセンターの入り口には、レンジャーの方2名が待っていて下さいました。コブシの木とトチノキの新生芽が膨らみフクジュソウがきれいに咲いて春が近いことを感じました。

桐生自然観察の森は自然に触れ、親しみ、考えるために平成元年に開設された施設です。約20ヘクタールの敷地の中に雑木林や沼、沢などがあり自然観察しやすく園路や観察舎が作られています。中心にはネイチャーセンターがあり職員が常駐し、自然情報の収集と提供を行っているそうです。園内を回るコースは幾通りもあるようですが、

私たちは「あかまつの道」をゆっくり登り、「ノスリの丘」を抜けてノスリ観察舎で一休みしました。

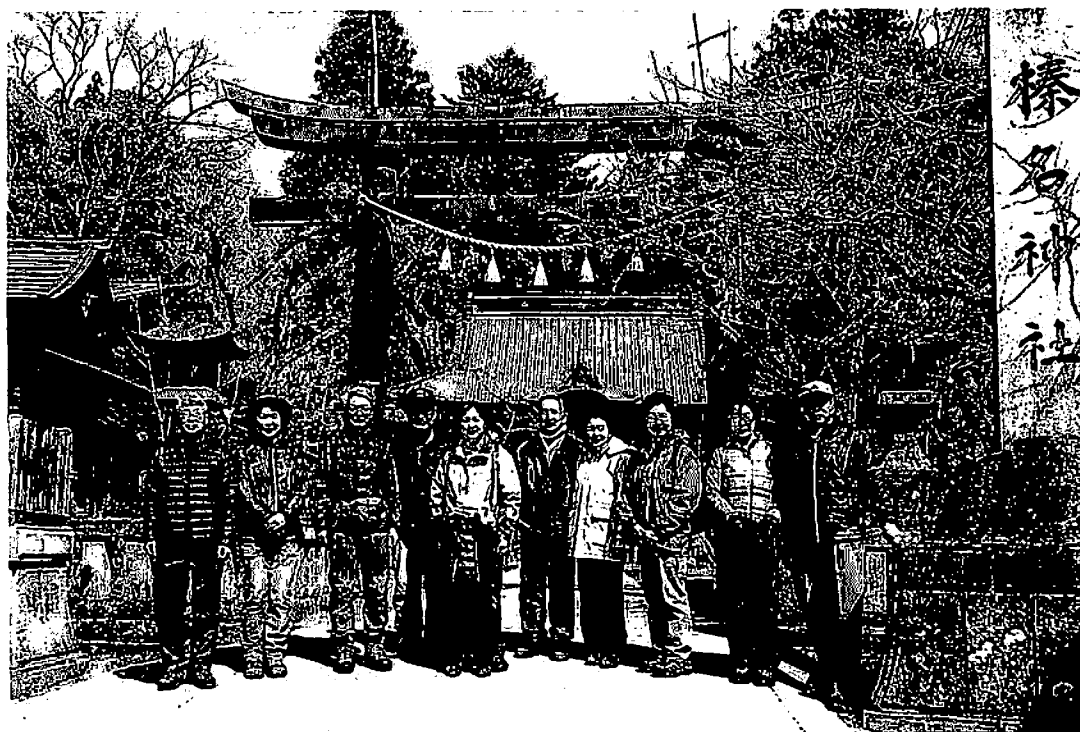
レンジャーの方からは自然の中ではゆったり歩いたり、考えたり、感じたり、味わったり、自然の中での過ごし方を提案してもらいました。今はまだ一面枯葉だけですが山が緑になったらまた訪れてみたいと思いました。レンジャーの方たちは「ノスリの丘」で別れて吾妻山に向いました。

静かな日差しの中を歩いてきましたが「関東ふれあいの道」を抜けるころには、強い風が出てきて吾妻山に向かうのはとても困難になり、予定を変更して村松峠から下山することにしました。

村松峠は1月にも通ったばかりの慣れた道ですが急な坂道、慎重にゆっくりと下り、本日の昼食を予定している「万来軒」に向いました。喉も乾きました。

冷たい飲み物とおいしい中華料理を賞味しながら本日の反省を兼ね歓談し、無事に下山できたことに感謝をして、2時頃解散しました。

(武井 記)



榛名、伊香保へ園児も参加

—— 3月の歩く会 ——

3月の例会は榛名山・榛名神社・伊香保温泉を3月12日に4歳の保育園児のおおる君他11名の参加で実施いたしました。

午前7時、予定通り桐生倶楽部を出発、コースは事前に高速道路、一般道路をナビゲーションで比較したところ、到着時間にほぼ差がないことから一般道で目的地を目指して大間々・大胡・渋川を經由して榛名山・最高峰の掃部ヶ岳(1449m)の登山口である榛名湖畔の国民宿舎榛名吾妻荘湖畔側の駐車場に予定通り午前9時到着。

登山は2グループに分かれて10人が予定通り掃部ヶ岳、2人は名峰榛名富士に分かれ、9時15分掃部ヶ岳山頂に向かって予定通り出発。

登り始めてすぐに登山道は雪道に変わり、ところどころにアイスバーンが見られる中、常にとおる君が先頭グループの中で歩き、続いて歩く参加者の大きな励みになりました。

登山道からは眼下に榛名湖が見られ、又頂上からは上信越並びに日光連山・八ヶ岳等の真っ白な山並みや遠くの山並みの上に見える富士山、すぐ

そばに大きく見える浅間山等の眺望に一同は大感激。雪道及びアイスバーンの登り及び下りで予定時間を少し超える今回の登山になりましたが参加者にはそれぞれに思い出に残る山行になったと思います。

山行の後、榛名神社を参拝、日曜日であったことから多くの参拝者がおられました但若い皆さんが多いことにも驚きました。参拝後各自昼食をとり、伊香保温泉・露天風呂に移動して今日の汗を流す。ホテルや入浴施設の浴室併設の露天風呂ではなく、旧伊香保町営露天風呂(現在は観光協会)で脱衣所しかない伊香保温泉の源泉で行く道には飲泉所もある風流な趣の露天風呂です。

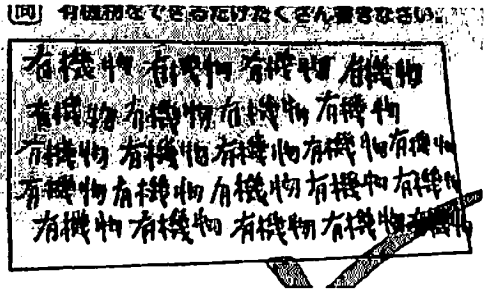
登山から入浴の全てを終わり、概ね予定通り帰着できましたが、これも今回の幼児から高齢の方の参加のもと、雪の残る春山を楽しく行動できたのも皆さんの協力のおかげでと感謝しております。

(新井 記)

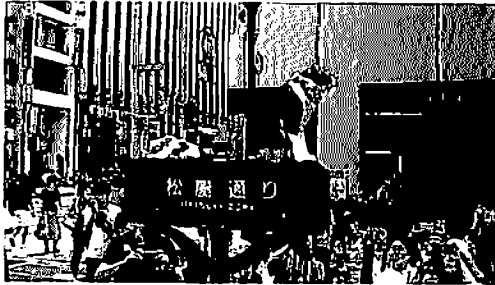
おもしろ写真鑑賞会

3月の月次会は「おもしろ写真鑑賞会」。進行は副理事長の坪井良廣さんが担当しました。

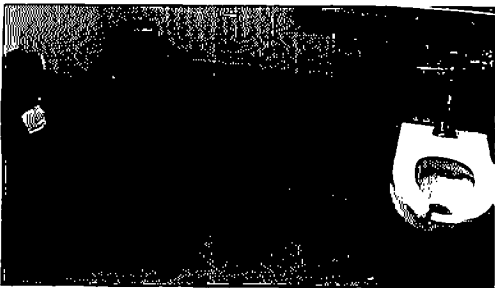
当日はインターネットや町歩きなどで集めた写真を331枚用意。「何も考えずに見ていただき、ただ笑っていただき、日ごろのストレス解消をしてほしい」とスライド映写。楽しい例会になりました。(21日2階大広間、参加者20人)



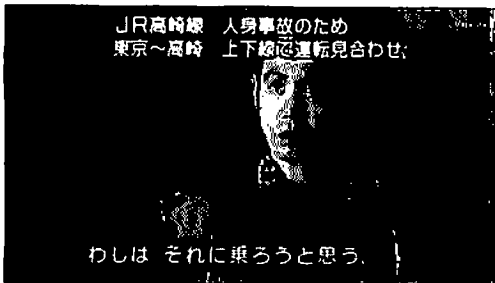
有機物をたくさん書きなさい



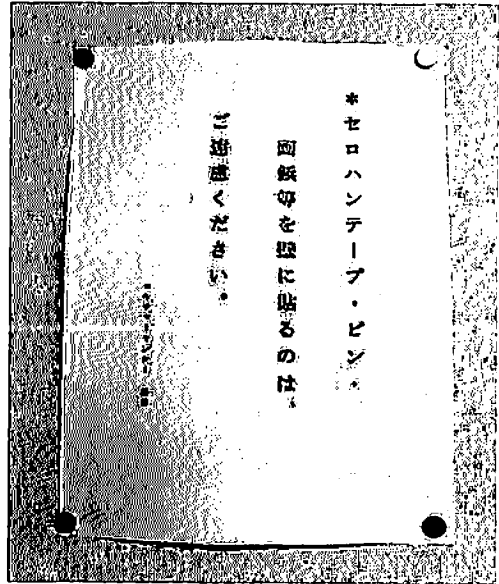
銀座で人だかり



遠すぎだろう



の、乗れませぬぞ



画紙で貼ってる館長…

= 倶楽部だより =

- 【2月】** 監査 (1日)
- ・理事会 (6日)
 - ・次期役員予定者会議 (6日)
 - ・歩く会世話人会 (16日)
 - ・歩く会例会「自然観察の森～吾妻山」 (19日)
 - ・臨時理事会 (23日)
 - ・定時社員総会 (23日)
- 【3月】** 歩く会例会「掃部ヶ岳・榛名神社」 (12日)
- ・営繕委員会 (13日)
 - ・理事会 (13日)
 - ・重要文化財特別委員会 (15日)
 - ・歩く会世話人会 (16日)
 - ・美術部会 (17日)
 - ・月次会「おもしろ写真鑑賞会」 (21日)
 - ・行事・交流委員会 (29日)

【退社社員】 黒澤 誠 後藤 隆造

一般社団法人 桐生倶楽部 第218号
2017年(平成29年) 4月発行
発行人 森 諒 作
編集責任者 前原 勝良
印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

倶楽部カラーを考えましょう



春の恒例、ガーデンパーティーで森理事長が提案

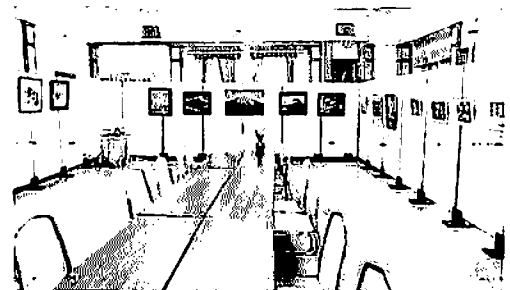
雨で室内、盛大に

桐生倶楽部恒例の文化祭とガーデンパーティーは、ことしも大いににぎわいをみせた。

文化祭は11日から3日間。社員やその関係者の力作が並んで、来場者を楽しませたが、13日があいにくの雨だったため、ガーデンパーティーの会場が急きょ2階の大広間になり、作品の撤収が早まったために見逃して残念がる声ももれた。

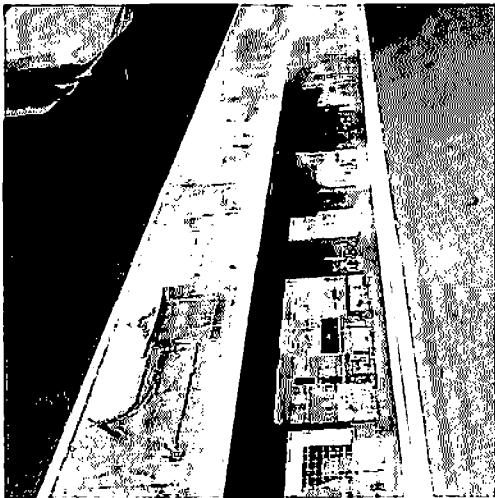
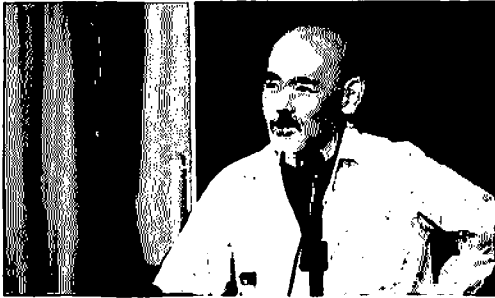
さて室内になったガーデンパーティー。参加者は87人と、大盛況。森理事長は「たくさんの方にご参加いただきました。ガーデンパーティーはいまから50年前に始まったようです。先人が掲

げた平和、幸福、親睦の理想を受け継ぎ、来年の100年には倶楽部カラーを決めたいという思いもあります。どんな色にするか。みんなで考えるのもいいんじゃないでしょうか」とあいさつ。そして、阿部前理事長の乾杯で幕を開けた。



ふれあいが収穫でした

本町通り絵図制作者 金原寿浩さんが卓話



4月24日・倶楽部月次会は美術家・金原寿浩（かねはら・としひろ／桐生市在住）さんを講師に迎え、「本町通り絵図・制作よもやま話」という卓話をして頂きました。今回は公開講座として社員以外の方々を含め45名の参加者を得ました。

金原さんは東京都出身、現在は共同アトリエ・金田丸岡平（旧住善織物工場／東久方町二丁目）のメンバーの一人として桐生で活動しています。

金原さんは平成18年から満4年かけて、天満宮から錦桜橋迄の本町通り東西6キロの街並みを描き、約60メートルの長大作を制作しました。酷暑の日や寒い日が有って、何度かくじけそうになったことがあるそうですが、初心貫徹。4年間の集大成として「絵図」を完成させました。この間、本町通りで制作途中の金原さんを見かけた方も多いと存じます。また昨年9月には有鄰館にて個展を開き「絵図」の全貌を皆さんに公開されていますので、ご覧になった方も多くいると思います。

金原さんは「アトリエの中に籠もって仕事をすることが多い“絵描き”が戸外に出て街のたくさ

んの人々と触れ合う機会を得たのが4年間の収穫だった」という言葉で卓話を締めくくりました。

（文責 村田）

麻雀鈴木さん、囲碁岸田さん

ガーデンパーティーの席上、文化祭協賛の春のゴルフコンペ、春の開碁大会、麻雀大会の表彰式が行われた。

麻雀大会は1位鈴木雅也さん、2位小林康人さん、3位石井謙三さん。囲碁大会の優勝者は岸田信克さん、2位は井上孝之さん、3位は倉林俊雄さんで、写真は93歳倉林さんと、健闘を称える森理事長。



ゴルフコンペ、優勝は福田さん

ゴルフコンペが行われた4月21日（金）は、晴天ではありませんでしたが、運動するには快適な一日でした。

今回初の試みで、平日の金曜日の開催としましたが、12名の参加にとどまりました。次回秋のゴルフコンペは、土曜日開催をして多くのゴルファーの出席を促し、ちょっと盛大に行いたいと思っております。2017年春のゴルフコンペ結果は次のとおりです。

▽優勝＝福田 英雄 ▽準優勝＝彦部 恭一

▽ベストスコア＝腰塚 富夫

（ゴルフ部会長 森田良徳記）





新緑に包まれた赤城山稜を歩く 5月の歩く会

雲一つない晴れわたった5月21日日曜日の朝7時にマイクロバスで桐生倶楽部を出発。参加者合計8名(女性1名と新人男性1名を含む)である。

新緑の眩い渡良瀬溪谷から根利街道に枝分かれして8時20分に花見が原キャンプ場に到着。人影はまばらである。足にやさしい熊笹の間の一本道を踏みしめて登る。元気な鶯のさえずりが心を奮い立たせる。

1時間歩いて岩場を横切ると木道が現れる。この辺から傾斜は増すが歩きやすさは続く。尾根に出るとあたりは一層明るくなり、柔らかな新緑の前方遠くに青緑色の小沼が、すぐ直下に大沼が現れる。

11時半に赤城山の最高峰である黒檜山頂(1828m)に到着。三百六十度近い雄大な展望だが、遠方の雪山は霞んでいる。12時10分下山開始、すぐに登り道から分かれて広い裾野を下

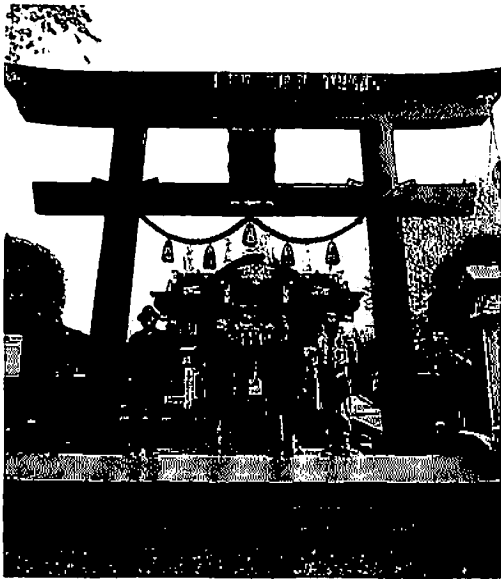
り、鞍部から再び山稜を登って12時40分に駒ヶ岳(1685m)に到着した。

登山道には可憐な姿をとどめる青いスマレ、赤い小粒な笹をつけたツツジが見られた。一カ所だけ鮮やかに咲き誇るシャクナゲのえんじ色に目を奪われた。

小休止の後、12時55分に大沼を眼下に最後の下山を開始する。鉄梯子と石ころ道との急な坂を下り、1時45分に登山口に到着。

我々のバスはキャンプ場から赤城北面道路を回って近くの駐車場に待っていてくれた。バイクの目立つ、明るい新緑の道路を下って2時40分に見晴らしの湯に到る。日光がふりそそぐ浴槽にゆったり浸かって元気を取り戻して3時半に出発、4時半に桐生倶楽部に帰還した。今後は黒檜の長い稜線を目にする度に、今日のあの登りと急な下りを思い起こすことであろう。

(山口 記)



加波山、笠間、春風万里荘

4月の歩く会

年間計画では、カタクリの群生と桜を楽しむ「坂戸山登山」の予定でしたが、積雪による登山道閉鎖のため、予定を筑波山、足尾山とともに常陸三山の名峰の一つである「加波山」（茨城県桜川市）に変更しました。

加波山は天狗の山としても知られ、山頂一带には奇岩や巨岩の類が集まっているところや社、祠が無数に点在していて神秘的な雰囲気漂っているとのことで期待していたのですが、当日は朝から小雨が降ったり止んだりの天気になった。またこの日はいろいろなイベントや予定が重なっている方が多いようで当日朝の参加者は最近の最低人数の4人の精鋭のみでした。バスの座席余裕たっぷりの状態で7時に桐生倶楽部を出発し太田桐生ICから北関東道を通り桜川筑西ICから一般道で加波山3合目に9時ごろ到着したが、雨は止まず加波山は霧の中なので、3合目のある桜観音にて記念撮影をして雨天用の計画に変更した。

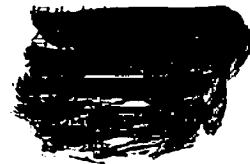
その後参詣道を下り加波山神社（郷社）、加波山三枝紙神社本宮（里宮）をお参りし、満開の桜を楽しんだ後笠間稲荷神社へ行き参詣。境内では茶席が出来ており無料サービスをしていたが雨天のためか席が空いていたので不作法ながら、お茶を頂いたあと、北大路魯山人の北鎌倉邸が移築されて日動美術館の別館として開館展示されている「春風万里荘」へ行くことにした。

道案内が少なく、迷いながら地元の方に教えてもらった道は工事中で通行禁止、回りまわってやっと春風万里荘に到着した。きれいに保存されている室内の様子や展示物（魯山人作の陶器）を鑑賞後、美しい日本庭園を眺めてから、日帰り温泉「ゆららの湯」に行き、遅めの昼食休憩をしたあと北関東道を通り桐生倶楽部に予定通り帰着しました。（吉田 記）

＝ 新入社員紹介 ＝（敬称略）



後藤 充宏



＝ 倶楽部だより ＝

- | | |
|-------------------------|----------|
| 【4月】 ・歩く会例会「加波山」 | (9日) |
| ・理事会 | (10日) |
| ・歩く会世話人会 | (13日) |
| ・春の開基大会 | (15日) |
| ・春のゴルフコンペ | (21日) |
| ・写真部会 | (21日) |
| ・正副理事長・営繕正副委員長会議 | (24日) |
| ・月次会「桐生本町通絵図・制作秘話」 | (24日) |
| ・麻雀大会 | (28日) |
| 【5月】 ・理事会 | (8日) |
| ・文化祭準備・講評会 | (10日) |
| ・重要文化財特別委員会 | (11日) |
| ・文化祭 | (11～13日) |
| ・ガーデンパーティー | (13日) |
| ・百年史編纂委員会 | (17日) |
| ・歩く会例会「赤城山」 | (21日) |
| ・歩く会世話人会 | (25日) |
| ・文化活動委員会 | (29日) |

【退社社員】 佐羽 秀夫（逝去）

一般社団法人 桐生倶楽部 第219号
2017年（平成29年）6月発行
発行人 森 壽作
編集責任者 前原 勝良
印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



織塾核に「はたおと村」を 6月の月次会 公開講座でまちづくり提案

6月の月次会は、「桐生織塾存続を目指して」と題し、公開講座を開催しました。6月いっぱいまで28年間の活動を休止することになった同所を核にして、「はたおと村」づくりが出来ないかと、一般参加者と共にさまざまな意見が交わされました。

織塾は1990年、明治初期の桐生織物を代表する成愛社のゆかりの地の旧青木邸に、故武藤和夫さんが開設しました。以来、桐生市の創作工房第1号として、塾生に知識や技術を伝授し、民族衣装や銘仙などを収集。新井求美塾長に交代後は工房機能を充実させ、企画展や子どもたちの体験学習などにも積極的に取り組んできました。

新井塾長はかつて桐生の先人たちが提唱し、故小池魚心さんは「工藝と農を柱とする自由に生きられる集落」を描いていたと、「はたおと村」を紹介。織塾の理念は村構想に生かされていると語りました。

これを受けて宮地由高副理事長は「織塾の存続とはたおと村構想をつなげられないか。いまこそこういう暮らしが大切では」と提案。聴衆からは「魅力ある場所なので一人一株出資するなど、みんなで協力したらいい」「織塾をもっと市民のものにしていかなければ」といった声も出ました。

(6月15日、2階大広間、参加者52人)



善光寺と須坂田中本家 6月の歩く会

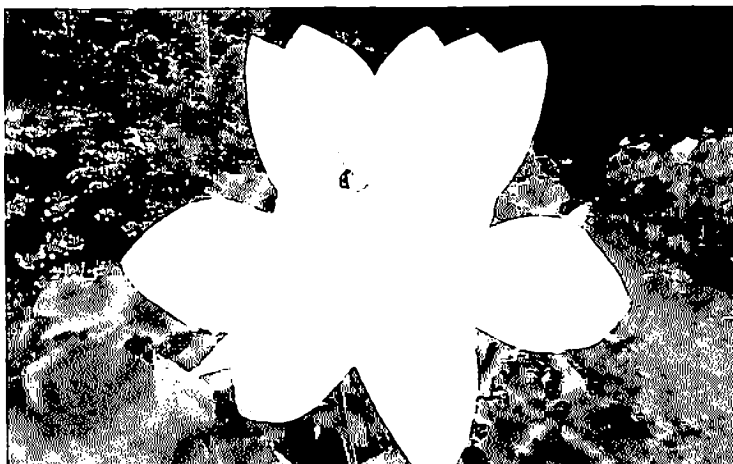
7月の「歩く会」は「志賀高原四十八池」へハイキングする予定でしたが、雨天のため、「善光寺と須坂田中本家博物館見学」に変更しました。

「歩く会」で善光寺を訪れるのは平成12年以来17年振りのこと。23日、朝6:00に桐生倶楽部を出発、9:30長野市善光寺到着。このお寺の開基は約1400年前の皇極天皇3年(644)とされていて、トップを「天台宗」と「浄土宗」が交代で務める無宗派の単立寺院です。

本堂(本尊・阿弥陀三尊像)参拝の後、真つ暗闇の「戒壇(ご本尊の真下)巡り」など境内を散策しました。境内の後は宿坊や土産物屋が並ぶ参道、門前町の商店街を散策。ここの街並みは電柱の地中化が進み、建物は古いながら美しく手入れされています。

「門前町の蕎麦屋で昼食(一杯の人も)。昼食後は須坂・田中本家博物館を見学。須坂藩は一万二千石の小藩でしたが、田中本家は米などの穀物・菜種油他を商って藩を上回る財力を持つ北信濃屈指の豪商だったそうです。江戸時代から伝わる陶器・漆器・書画・衣装などの数々が展示された興味深い博物館で、美しい日本庭園も見どころでした。

17:30に倶楽部帰着。雨天で予定変更しましたが、楽しいバス旅行でした。参加者は20名。(村田 記)



大川美術館で鑑賞会 夏の美術部会



寺田館長の講話

桐生倶楽部美術部は6月16日、初夏の美術鑑賞会を大川美術館で開催しました。同館は来年(2018)で30年を迎えるそうです。画家「野田英世」の「都会」に影響を受けた日本が誇る貴重な画家「松本俊介」の「街」や、企画展では5人の画家によるヨーロッパの旅を通し多彩な技法で描かれた水彩画の極意を主任学芸員「小比木美代子」氏の解説によって鑑賞いたしました。

特に展示作品の鑑賞に留まることなく、元大川館長の意思を継承し7年目となる館長「寺田勝彦」氏との座談会が1階喫茶室で行われ参加者全員が熱心に聴講されるなど有意義な鑑賞会となりました。なお、鑑賞会の流れとしては、参加者が午後1時30分に現地集合し、3階の大展示室で小比木学芸員から美術館の設立経緯と展示作品等についての簡単な説明があり、その後、4階のサービスエリアの常設展示室から2階の企画展(水彩画)までを鑑賞、午後3時を過ぎて1階喫茶室で

ホットコーヒーをいただきながら寺田館長との座談会が行われ、無事に絵画鑑賞会を終了いたしました。(桐生倶楽部美術部 部長 原 秀匡、副部长 川口裕子、参加者18人)

神津牧場から物見山へ 6月の歩く会

6月の例会は、梅雨入りの時期を勘案して、いつもと違う第1日曜日の4日に、老若男女合わせて12名の参加で行われた。

朝7時、全員集合し、物見山へと向かった。北関東道の太田敦塚ICで高速道路にのり、上信道の下仁田ICでおり、予定通り9時過ぎに神津牧場駐車場に到着。9時15分、物見山登山開始。登山道はゆるやかで、木漏れ日の中、新緑に輝いた木々をなでる風は5月の爽やかな空気で満ち溢れ、大変気持ちの良いハイクになった。

辺りの静けさを破るかのように、カッコウの鳴き声が辺りを包む。あちこちに名残惜しそうに咲いているヤマツツジの赤い花が、彩りをそえてくれる。昼食を早めに済ませ、おいしい牛乳とソフトクリームの待っている神津牧場へ下山した。

一行はそれぞれにお目当ての名物に舌鼓をして、ゆっくり贅沢な時を過ごした。帰途、「荒船の湯」で旅の疲れを洗い流し、5時桐生倶楽部に到着。天候に恵まれ、メンバーにも恵まれ、最高の山行になった。(岸田 記)



「ドローンとその未来」

7月の月次会

塩崎泰雄さんが卓話

最近ではテレビや映画に頻繁に空撮が使われ、一時期の悪者イメージからは、随分と市民権を得たドローンですが、まだまだその実像は理解されていない様です。

実は、平成27年12月に航空法が改正され、200g以上のラジコン飛行機やドローンが「無人航空機」として加え、厳格な飛行条件が定められ、これに違反すると50万円以下の罰金が課せられ、書類送検もされます。ドローンは魅力的で便利で面白いものですが、法律で規制されるほど、危険なものでもあります。

今回の卓話では、当会製作の渡良瀬渓谷鐵道の空撮ビデオ13本の紹介からはじめ、改正航空法の簡単な説明、そして初心者がドローンを購入し飛行されるまでのコツについてお話をしました。

(桐生ドローン利活用協議会 会長・塩崎泰雄)



はじめてのドローン

1. 経験者に聞きましょう (DUCK相談室)
2. 5千円くらいのドローン
3. 室内で練習
4. ドローン教室を受講
5. 航空法を遵守 (作法を勉強)
6. カメラ付き高性能ドローン購入



＝ 新入社員紹介 ＝ (敬称略)

＝ 倶楽部だより ＝

- 【6月】・歩く会例会「神津牧場・物見山」 (4日)
 ・重要文化財特別委員会 (8日)
 ・歩く会世話人会 (8日)
 ・理事会 (12日)
 ・月次会「桐生織壱存続を目指して」 (15日)
 ・美術部会「大川美術館」 (16日)

- 【7月】・理事会 (10日)
 ・社員増強委員会 (18日)
 ・月次会「ドローンとその未来」 (20日)
 ・歩く会例会「志賀高原」 (23日)
 ・文化活動委員会新設部会発足準備会 (25日)
 ・歩く会世話人会 (27日)

【退社社員】 寺田 勝彦

一般社団法人 桐生倶楽部 第220号
 2017年(平成29年) 8月発行
 発行人 森 壽作
 編集責任者 前原 勝良
 印刷 ツボノ印刷株式会社